2019年度シラバス

科目名:ＮＧＯ・ＮＰＯ論	担当者:古藪　真紀子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
なぜNGOは存在するのか。開発援助の背景とともに、NGO・NPOの種類、役割、活動などの概要を理解し、NGO・NPOによる国際協力の在り方を理解する。また、学生のキャリアパスの一つの選択肢として、国際NGO・NPOで働くとはどういうことか考えるとともに、体験ワークショップを通して、もし自分がNGO／NPOの職員だったらどのような活動をすることになるのか、「具体的なイメージ」を構築する。
特定の教科書は使用せず、プリントや視聴覚教材を使って、NGO・NPOの活動などについて、具体的なイメージを持てるようにする。一方的な講義スタイルではなく、常に受講生の意見を求め、ディスカッションの場を持つ。後半のワークショップは、参加型学習・グループ活動のスタイルで実施するため、受講生の積極的な参加が期待される。また、受講生には、講義毎にコメントシートを提出してもらう。

授業の到達目標
・NGO・NPOの組織・役割・活動・課題について理解する。
・NGO・NPOによる開発援助や支援活動の在り方を理解する。
・上記の知識と体験型ワークショップを通して、自ら考え表現する力と国際問題を判断する力を養う。
・問題分析や目的分析などのツールを使って、様々な課題に対しての活動や解決策を、自ら考え、表現できるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
前半は各回のテーマに沿った具体的な事例について事前に調べる。後半のワークショップでは、グループでの最終発表に向けて、講義外活動が必要となる。

評価方法
レポート（40%）、ワークショップ発表など講義内課題(30%)、講義ごと提出のコメントシート（30%）

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段に関しては、最初の授業で案内する。

01	概論：NGO・NPOとはなにか
02	概論： 開発援助とNGO
03	NGOの活動（１）：医療・教育
04	NGOの活動（２）：貧困
05	NGOの活動（３）：紛争
06	NGOの活動（４）：ジェンダー
07	NGOの活動（５）：災害・福祉
08	NGO・NPOの視点から国際協力を考える（１）
09	NGO・NPOの視点から国際協力を考える（２）
10	ワークショップ（１）：導入
11	ワークショップ（２）：問題分析
12	ワークショップ（３）：プロジェクト選択
13	ワークショップ（４）：プロジェクト形成
14	プレゼンテーション(１)
15	プレゼンテーション(２)、まとめ プレゼンテーション(２)、まとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:現代社会と企業	担当者:森田　優己	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:なし		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本講義は、桜花学園大学の建学の精神である社会の発展に寄与する「信念ある女性」の育成のための科目群に位置づけられている。私たちの生活は、企業活動と密接に結び付いている。本講義では、現代社会に不可欠な企業という「協働システム」とは何か、この組織と個人の関係について学ぶ。授業後には簡単な質問シートに記入してもらい理解度を確認する。翌週にフィードバックを行う。

授業の到達目標
就職し「社会人」になるということは、「組織人」として行動することが求められることであるということを理解することができる。その上で、個人ではできないことをやりとげるためにつくられた「協働システム」としての組織のあり方や個人との関わり方について、自らの考えをもつことができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業の進行に合わせて具体的な事例を自分で調べること、自分の考えを述べることが求められる。そのため、事前・事後を含めて4時間程度の授業外学修が必要である。

評価方法
授業へのとりくみ状況50%、レポート50%

教科書 使用せず	参考図書 授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業時間外での質問は、オフィスアワーに研究室で受け付ける。この時間以外については、メールでアポイントをとること。オフィスアワーの時間とメールアドレスは、授業時間内に開示する。

01	オリエンテーション
02	業界と企業の形態
03	株式会社のしくみ
04	企業は生き物
05	企業組織の基本的な仕組み
06	労働とマネジメント
07	労使関係と労働組合
08	経営戦略の基礎
09	多様な経営戦略論
10	ものが売れる仕組み
11	ものをつくる仕組み
12	経済と企業の関係
13	企業の社会的責任と企業倫理
14	新しい企業と経営のあり方
15	まとめ
16	定期試験（レポート）

2019年度シラバス

科目名:地域協力演習	担当者:根尾　文彦	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業ではディプロマポリシーに沿って、修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を身につけることが望まれる。少子高齢社会である我が国が今後発展するためには「地域の活性化」が重要なテーマとなっています。本授業では大学が存する地域の歴史、文化、伝統、生活様式などを知るとともに、大学生としてどのように地域と交流し、いかに地域に貢献できるかをフィールドワーク実習を通して学習します。フィールドワークは時間的理由から正規授業時間外で実施する場合があります。
レポート報告3回、レポート発表1回。

授業の到達目標
現代社会における「地域力」の重要性を学びます。先ずは大学が所在する地元である、豊明、有松、桶狭間地区の歴史、文化、伝統などについて学びそれぞれが抱える課題などを抽出します。それを踏まえて、自分の住む町について調査し、課題を抽出して、課題解決に向けて各自の提案をまとめる力を付けます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
フィールドワークで訪れる地域及び自分の住む町に関心を持ち、文献、資料などから情報を収集する。フィールドワークは現地までの移動時間、現地での調査などにおいて時間が掛かるため、通常の授業時間帯でなく、全員が揃う日時（場合によっては土・日・休日を含む）にて実施する場合がある。受講生確定後、速やかに決定するが、その場合は通常授業時間は振り替えとする。

評価方法
授業への参加態度（50%）、フィールドワークレポート内容（30%）、発表内容（20%）

教科書	参考図書
特になし、プリント等を配布	観光関連専門雑誌（㈱トラベルジャーナル発行）『トラベルジャーナル』など

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　neo@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7307号室

01	「地方創生」の概念
02	有松の町を学ぶ①（講義）
03	有松の町を学ぶ②（外部講演）
04	有松地区フィールドワーク
05	有松絞り体験（実費2,160円）、有松福寄雛創作①
06	有松絞り体験（実費2,160円）、有松福寄雛創作②
07	有松の行事に関する創作活動
08	フィールドワークのまとめ、レポート作成
09	桶狭間の戦いを学ぶ（講義）
10	桶狭間の戦いを学ぶ（外部講演）
11	桶狭間地区フィールドワーク
12	フィールドワークのまとめ、レポート作成
13	私の住む町を学ぶ（各自調査）①
14	私の住む町を学ぶ（まとめ、レポート作成）②
15	私の住む町を学ぶ（レポート発表）
16	なし

2019年度シラバス

科目名:英語コミュニケーションⅠ	担当者:Eleanor Sugiura	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics and have the confidence to conduct successful ten-minute conversations in English with a helpful native speaker.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%
Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%

教科書	参考図書
Active Skills for Communication Book 2	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Attendance: Students are expected to attend class regularly. Students who miss 6 classes will receive an F.

01	Unit 1 Class Facebook (Interrogatives, Verb phrases)
02	Unit 1 Class Facebook (Infinitives, Personal Information)
03	Unit 2 Personal Motto (State of being verbs)
04	Unit 2 Personal Motto (Adjectives, Prepositions)
05	Review and Assessment (Unit 1 - Unit 2)
06	Unit 3 Tall Tales (Past progressive tense & past simple tense)
07	Unit 3 Tall Tales (Storytelling expressions, Adjectives)
08	Unit 4 Keepsakes (Keepsake items, Time expressions)
09	Unit 4 Keepsakes (Present perfect tense, Present perfect continuous tense)
10	Review and Assessment (Unit 3 - Unit 4)
11	Unit 5 Team Spirit (Plural/ singular nouns)
12	Unit 5 Team Spirit (Discussion expressions)
13	Unit 6 Hot Spots (Locations, Adjectives)
14	Unit 6 Hot Spots (Gerunds & infinitives, Activities)
15	Review of all units and progress check
16	No test

2019年度シラバス

科目名:英語コミュニケーションⅡ	担当者:Eleanor Sugiura	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics and have the confidence to conduct successful ten-minute conversations in English with a helpful native speaker.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%
Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%

教科書	参考図書
Active Skills for Communication Book 2	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Attendance: Students are expected to attend class regularly. Students who miss 6 classes will receive an F.

01	Unit 7 Class Cookbook (Cooking-related vocabulary)
02	Unit 7 Class Cookbook (Imperatives, Sequencing expressions)
03	Unit 8 Business Venture (Definite or indefinite articles)
04	Unit 8 Business Venture (Business vocabulary)
05	Review and Assessment (Unit 7 - Unit 8)
06	Unit 9 Job Interview (Verb phrases, Modals and related expressions)
07	Unit 9 Job Interview (Job-related vocabulary)
08	Unit 10 TV Preview (TV show & movie vocabulary)
09	Unit 10 TV Preview (Relative clauses) 10. Review and Assessment (Unit 9 - Unit 10) Unit 10 TV Preview (Relative clauses) 10. Review and Assessment (Unit 9 - Unit 10) Unit 10 TV Preview (Relative clauses)
10	Review and Assessment (Unit 9 - Unit 10)
11	Unit 11 Public Opinion (Hypothetical situations)
12	Unit 11 Public Opinion (Reporting results)
13	Unit 12 Mini Debate (Position statements)
14	Unit 12 Mini Debate (Debate issues)
15	Review of all units and progress check
16	No test

科目名:環境の科学	担当者:辻　広志	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択必須

授業概要と方法
「自然を知る」の分野では、環境や食、脳、生命の科学に触れ、現代社会に不可欠な自然科学的な見識を深める。特にこの科目では、様々な生態系における環境問題と生物の保全対策について学び、ヒトと自然の共生のあり方について考える。配布プリントによる講義を中心に、視聴覚教材、現物資料の提示、実習、雑誌・新聞記事、インターネット等を通して、自然環境や野生生物に対する理解を深める。

授業の到達目標
地球環境、生態系のしくみ、生物多様性について理解し、環境保全活動の実践方法を知る。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
環境問題・自然環境・野生生物に関する最新の情報を、新聞やテレビ、インターネット等で入手すること。

評価方法
レポート試験50%、平常点50%（授業感想文、出席状況、授業への取り組み姿勢）で総合評価する。

教科書 使用しない	参考図書 授業中に適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
天候等により授業計画を変更することがあります。質問等がある場合は、研究管理棟２Ｆの218研究室に来てください。

01	イントロダクション：環境問題と私たちの暮らし
02	生物多様性と自然の恵み
03	生態系のしくみと生き物どうしのつながり
04	植物の種子散布と身近な雑草の生存戦略
05	野外実習：キャンパスの自然観察
06	外来生物が生態系に及ぼす影響
07	有害化学物質・環境ホルモンによる環境汚染
08	地球温暖化が生物に及ぼす影響
09	飽食の実態とフードマイレージ
10	自然保護区による生態系の保全
11	レッドリストと絶滅危惧生物の保全
12	企業・市民による環境保全活動
13	ビオトープと自然再生事業
14	女子学生の自然体験と身近な生き物アンケート
15	まとめと確認
16	なし

2019年度シラバス

科目名:食と生命の科学	担当者:辻岡　和代,藤田　公和,木村 達志	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:受講者上限を１名とし、超えた場合は抽選とします		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は、桜花学の「自然を知る」という群に配置された大学共通教養科目です。この授業では、食・脳・生命の科学に触れ、現代社会に不可欠な自然科学的な見識を深めます。3名の教員から5回ずつ食・脳・エネルギー代謝について受講するオムニバス形式の授業形態とし、講義（6回）、グループ学習・問題解決学修（3回）、実験（4回）、プレゼンテーション（2回）を行います。

授業の到達目標
・科学的根拠をもとに食の重要性を他者に伝える能力を養い学生同士で意見交換することができる。・脳の構造や機能、発達について興味を持ち、日常の身近な課題との関係を理解できる。・自分の体重について、栄養摂取量と身体活動量のバランスから成り立っている事を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・食に関する情報の科学的根拠を授業内での学習をもとに積極的に考える力を養ってください。（辻岡）・テレビなどで放送している脳科学関連の番組を視聴するようにしてください。（藤田）・メディアで発信されている健康に関する情報を取捨選択できる能力を身につけて下さい。（木村）・自宅などで1日に2回体重を測りますので、受講者は体重計（100g精度のデジタル表示が望ましい）を用意して　下さい。　（木村 ）

評価方法
平常点（授業態度・グループ学習・実験の取り組み・プレゼンテーション等）40%、レポート試験（3人の教員がそれぞれレポート課題を課します）60%の割合で評価します。

教科書	参考図書
特になし	授業内で紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・受講者の上限を100名とし、超えた場合は抽選とします。・質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付けます。詳細については授業で開示します。・この授業は、初回から受講することが求められており、2回目以降からの受講は避けてけて下さい

01	食の科学に関するガイダンス　学術論文と科学的根拠　（辻岡）
02	清涼飲料水の科学実験（辻岡）
03	食品添加物に関する知識と着色料の抽出実験（辻岡）
04	食品の化学変化がもたらす調理実験（辻岡）
05	食に関するプレゼンテーション（辻岡）
06	脳・神経の発達、記憶・学習（藤田）
07	脳の障害（ADHD、自閉症、虐待、切れる子ども）（藤田）
08	脳の左右差、男脳・女脳（藤田）
09	睡眠のメカニズムと脳の発達（藤田）
10	妊娠・出産と育児の脳科学（藤田）
11	体重を正確に測定する方法（木村）
12	基礎代謝量、生活活動強度、栄養所要量の算出（木村）
13	身体運動により消費されるエネルギー（木村）
14	BMIの算出と日本人のデータについて（木村）
15	行動変容と体重変化についてのプレゼンテーション（木村）
16	

2019年度シラバス

科目名:スポーツⅠ	担当者:寺田　恭子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
ダンスについての知識を取得し、多様な動きから生まれる豊かなイメージを身体で表現する。また、様々な表現方法を模索し、チームで1つのダンスパフォーマンスを創作する。授業の前半は様々なダンスの紹介と身体を使った自分らしい身体表現方法を学ぶ。後半は、チームを作りテーマを決めてダンスを創作し発表する。

授業の到達目標
身体表現の面白さを体感し、人間の身体の可能性について様々な角度から理解を深める。さらに集団でダンスを創作し作品を完成させることにより、チームの中でも自身の力を発揮できる人間としての成長が実感できることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業時の非日常的な動作による怪我を防ぐため、自宅でもストレッチ等を行い、多様な動きに対応できる身体作りを意識的に行うこと。また授業後のクーリングダウンも積極的に行うこと。創作活動の期間は、授業以外でもグループメンバーで連絡をとり、授業時に的確なアドバイスが得られるように質問・相談内容を考えておく。

評価方法
ミニレポート10点×3＝30点満点　平常点40点　創作作品発表30点で評価する。

教科書	参考図書
なし	資料はその都度配布する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
動きやすい服装。靴底の柔らかい室内シューズを使用すること。ダンス用シューズでもよい。授業用のノートを作ること。

01	オリエンテーション　ダンスって何だろう
02	身体を動かす①　様々な音楽と動き 身体を動かす①　様々なリズムと身体の動き
03	身体を動かす②　リズムに乗り、リズムを感じて動く
04	身体を動かす③　やってみよう！模倣から入る楽しさの発見１
05	身体を動かす④　やってみよう！模倣から入る楽しさの発見２
06	二人で踊ろう　相手を尊重し、相手を感じて楽しく踊る１
07	二人で踊ろう　相手を尊重し、相手を感じて楽しく踊る２
08	表現の可能性　音楽とイマジネーション　群舞で踊る魅力１
09	グループディスカッション　学びを通してお互いを理解し合う
10	グループワーク１　テーマを決める　音楽を決める
11	グループワーク２　作品の構成　衣装
12	グループワーク３　振付・アレンジ
13	グループワーク４　練習
14	グループワーク５　練習
15	創作ダンス　発表会
16	まとめ　ダンスの魅力

2019年度シラバス

科目名:スポーツⅠ	担当者:寺田　泰人	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
近年、保育活動にサッカー遊びを取り入れたり、サッカー教室を開催している幼稚園や保育所が多くなっている。また小学校学習指導要領では、ゲームあるいはボール運動領域の中でゴール型ゲームとしてサッカーやタグラグビーを展開している。そこでこの授業では、サッカーやタグラグビーの基本的スキルを習得し、簡易ゲームを実施することで、ボールゲームを楽しむことを目的とする。なお授業期間の前半はサッカー、後半はタグラグビーを実施する。

授業の到達目標
1.自分の体力水準に応じた可能な範囲で、体力・運動能力の向上を目指す。
2.準備運動、整理運動の重要性を理解し、傷害の予防に留意してスポーツに親しむことができる。
3.サッカー、タグラグビーの基本的なスキルを習得する。
4.サッカー、タグラグビーのルールを理解し、ゲームを楽しむことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・配布資料からサッカー、タグラグビーのルールや戦術などについて予習・復習をする。
・十分に運動できるよう体調を整えて参加すること。（睡眠を十分とる。朝食をとる。など）
・授業後に疲労回復を図ること。

評価方法
①授業への積極的な参加態度（20%）　②個人技能の向上度やルール・マナーの理解度（40%）　③練習やゲームに取り組む姿勢・メンバーとの協力・準備・片付けなどの受講態度（40%）

教科書	参考図書
特になし	適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には運動するのにふさわしい服装・シューズで臨むこと。そうでない場合は受講は認めません。
授業中に適宜水分補給できるよう水筒やペットボトルを持参すること。

01	オリエンテーション、授業の進め方など
02	サッカーの基本技術① インサイドキックを中心としたパス練習
03	サッカーの基本技術② グリッドを利用したパス練習
04	サッカーの戦術理解① FW、BKの役割について
05	サッカーの戦術理解② フォーメーションを意識したシュート練習
06	簡易ゲームとルール理解
07	ゲームの実践（班別リーグ戦）
08	ゲームの実践（班別リーグ戦）
09	タグラグビーの基本技術① タグの付け方、タグ取りゲーム
10	タグラグビーの基本技術② グリッドを利用したパス練習
11	タグラグビーの基本技術③ ランニングパス
12	タグラグビーの戦術理解　フリーパスからの攻撃パターン
13	簡易ゲームとルール理解
14	ゲームの実践（班別リーグ戦）
15	ゲームの実践（班別リーグ戦）
16	なし

2019年度シラバス

科目名:スポーツⅠ	担当者:横井　康博	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
生涯スポーツとして広く受け入れられているゴルフという種目を授業内にだけにとどまらず、在学中または卒業後にも生かせる講義を行う。初心者を対象とした指導を行うように基礎的な部分を重視しながら進めていく。

授業の到達目標
自分にあったグリップやスタンスを見つけ、自分のスイングを確立する。さらに、そのスイングでボールを打つ際にも崩れないスイングリズムを身につけることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
特に捻転を求める種目なので授業内でもフォローはするが、各自で柔軟性を高める準備を行う。テレビなどでゴルフの中継を見ておく。

評価方法
基本的に全出席が望ましい。平常点・レポート点・授業態度・実技点を下記のように総合評価する。なお、服装やアクセサリーの不備に関しては、平常点から減点することとする。平常点３０％・レポート点１０％・授業態度４０％・実技点２０％

教科書	参考図書
特に無し	特に無し

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
アクセサリー禁止。服装は、ジャージや体操服（ジーンズやスウェット禁止）と運動靴で受講すること。

01	オリエンテーション　今後の授業の進め方
02	ゴルフの基礎知識
03	ゴルフスイングの基本Ⅰ　グリップの種類と握り方
04	ゴルフスイングの基本Ⅱ　アドレス姿勢の重要性
05	ゴルフスイングの基本Ⅲ　スイング軌道について①　バックスイング　切り返し　ダウンスイング
06	ゴルフスイングの基本Ⅳ　スイング軌道について②　インパクト　フォロースルー
07	ゴルフスイングの基本Ⅴ　スイングリズムと体重移動
08	ショットの基本Ⅰ　ボールを置く位置の違い
09	ショットの基本Ⅱ　打球の強弱を意識して
10	ショットの基本Ⅲ　方向性を意識して
11	ショットの基本Ⅳ　自身のコントロールによる打ち分け
12	ショートゲーム①
13	ショートゲーム②　ターゲットバードゴルフ
14	ショートゲーム③　パットゴルフ
15	まとめ　目標達成度チェック
16	なし

2019年度シラバス

科目名:スポーツⅡ	担当者:榎本　宣子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
バドミントンの魅力のひとつは、だれでも手軽に楽しむことができる点にある。技術と戦術を学ぶことにより、運動量の多さや、技術の奥行きの深さ、戦術の複雑さに驚かされる。ダブルスゲームのフォーメションの理論と戦術、シングルスゲームのレベル別の試合を通して、バドミントンの楽しさを体験する。バドミントンの理論と実践、またそれらを通して運動感覚を習得し、生涯にわたって年齢と体力に応じた豊かなスポーツライフを送るための基盤づくりをする。

授業の到達目標
・準備運動、整理運動の重要性を理解し、傷害の予防に留意してスポーツに親しむことができる。・スポーツの場の空間配置を整え、安全に留意したスポーツ行動の習慣化。　・市民スポーツの愛好者団体に参加し、リーダーシップを発揮することができる。・選択履修したスポーツ種目の特性を理解し、基本的技術、ルール、マナー、審判法を修得し、市民スポーツ競技会等に参加することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
配布資料からスポーツのルールや技術、戦術、歴史の予習復習をする。

評価方法
授業への積極的な参加度と、授業の練習記録とレポート及び、技術的な進歩度によって総合的に評価する。授業への取り組み50%、種目特性の理解及び技術の習得度50%。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
それぞれのスタート地点は違います。毎回の授業で全体の目標以外に、自らの目標を設定し、あきらめずに努力を重ねましょう。小さな進歩の積み重ねが、スポーツの楽しさへとつながります。

01	オリエンテーション．授業の進め方の説明など。
02	ストレッチの理論と実践　そのⅠ基本　ラケットの使い方Ⅰ
03	ストレッチの理論と実践　そのⅡ　目的別のストレッチ　ラケットの使い方Ⅱ　シャトルの特性
04	ストレッチの理論と実践　そのⅢ　目的別のストレッチ　ラケットの使い方Ⅲ　ラリーを楽しむ
05	ストレッチの理論と実践　そのⅣ　応用　ショットⅠ(ハイクリア・ドライブ)ダブルス簡易ゲーム
06	ストレッチの理論と実践　そのⅤ　応用　ショットⅡ(ヘアピン）ダブルスゲームのルールと審判
07	ショットⅢ（プッシュ）ダブルスゲーム。
08	ショットⅣ（ロブ）バドミントンの歴史、ダブルスゲーム。ダブルスのフォーメーション
09	ショットⅤ（スマッシュ）ダブルスゲーム。ダブルスのフォーメーションの応用
10	ロングサービスとショートサービス。ダブルスゲーム。
11	修得した技術の見直し。フットワーク(前後　左右への動き）　シングルスゲームのルールと審判。
12	運動感覚の習得Ⅰ　　シングルスゲーム（技術レベルに応じたシングルスゲーム）
13	運動感覚の習得Ⅱ　各ショットの完成のための個別練習。シングルスゲーム
14	運動感覚の習得Ⅲ　各ショットの完成。強いスマッシュのための個別練習。シングルスゲーム
15	まとめとして習得した技術の発表。
16	なし

2019年度シラバス

科目名:スポーツⅡ	担当者:伊藤　僚	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
安定したラリーの修得をめざし、さらにはダブルスを中心とした試合形式のゲームを楽しむことができる。

授業の到達目標
サーブとリターン、ボレーやドロップができることを目標とする。
ダブルスゲームを通してポジショニングやパートナーちにコミュニケーションを学び、さらにテニスにおけるルールやマナーを深める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
テニスは屋外で行う体力のいるスポーツです。日頃からの運動で基礎体力を身に付けておいてください。

評価方法
授業への参加態度80%　確認テスト20%

教科書	参考図書
特になし	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
運動の出来る服装（ジャージ）に着替え、運動の出来る靴を必ず履いてください。

01	ガイダンス　用具の説明
02	正確なグリップの理解
03	フォアハンドストロークの基礎
04	フォアハンドストロークの応用
05	バックハンドストロークの基礎
06	バックハンドストロークの応用
07	サーブの基礎①
08	サーブの基礎②
09	ドロップショット
10	スライスショット
11	ゲームのマナー及びルール
12	ダブルスゲーム①
13	ダブルスゲーム②
14	ダブルスゲーム③
15	確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:統計学	担当者:上原　隆司	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:パソコン使用		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この講義ではデータを解析する際に用いる統計的手法の基礎となる理論の講義の後に、MS Excel を用いた実際のデータ解析の演習を行う。毎回の授業で充電されたノートパソコンを持参すること。

授業の到達目標
データを解析するときにはソフトが計算してくれた結果をそのまま記述するだけではなく、そこでどのような統計的手法が用いられ、なぜその方法が有効かを理解しておく必要がある。この授業では統計学の基礎的な用語や手法を理解し、目の前のデータに用いるべき統計的手法を自分で選択できるようになることを目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
普段の生活やニュースなどでデータとそれに対する分析を目にしたときに、どのような形のデータをどのように処理したのか、その方法は適切か、どのようなデータを取れば示したいことが言えるかなどを意識して考え、統計的な考え方に慣れる。

評価方法
レポート(70%)、授業への参加態度(30%)

教科書	参考図書 「まずはこの一冊から 意味がわかる統計学」 石井俊全 ペレ出版

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分で解析したいデータを用いることが統計学への関心と理解を深めるので、興味のあるデータを持っていれば自分で授業の内容を応用して調べてみることが重要である。質問等があれば研究管理棟 3 階の教員研究室(3-7)へ。

01	データと統計解析
02	相対度数分布表とヒストグラム
03	平均、分散、標準偏差
04	平均と分散の感覚的理解
05	変動係数、抽出された標本の特徴
06	確率変数と確率分布ー二項分布を例に
07	正規分布―いまなら分かる「偏差値」
08	統計的検定の考え方―「私はじゃんけんが強い」は本当か?
09	t検定ー平均値の差の検定
10	分散分析ー3群間の平均値の差の検定
11	χ2検定(カイ2乗検定)ー男女間で好みに違いはあるか?
12	2変量の統計1ー散布図と相関係数
13	2変量の統計2ー無相関検定と回帰直線
14	統計的手法の選び方と結果の伝え方
15	全体のまとめ
16	なし

科目名:社会調査法	担当者:南　裕一郎	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本講義では、社会調査の理論と技法について学びます。明確な問題意識に基づいて仮説を立て、調査法の選定、調査の設計、実査、データの分析と命題の提示にいたるまでのプロセスを科学的・客観的に処理する方法について詳述します。社会調査は「社会」のすがたを明らかにする手段ですが、同時に、調査過程での他者とのコミュニケーションを通じて、自分とは何か、自分と社会はどうつながっているのかについて考えるきっかけにもなります。

授業の到達目標
社会調査の理論・方法論・技法を修得し、卒業論文などでアンケート調査・インタビュー調査などを実施できるようにする（＝リサーチ・リテラシー）とともに、論文やレポート、報告書等の作成に必要な論理的な文章の書きかた・構成のしかたについても身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃から新聞やテレビ、インターネット上にあるさまざまな「調査」について目配りし、私たちの社会がどうなっているのか、どんな仕組みで動いているのかについて考える習慣をつけてください。また、配布された印刷教材をかならず事前・事後に読んでおいてください。なお、授業内でパソコン（おもにExcel）を使用する回があります（2〜3回）。日ごろから積極的にExcelを使うように心がけてください。

評価方法
①期末レポート：70%（各自で調査を実施し、調査報告書を期末レポートとして提出する）、②授業への参加態度：15%、③授業中に数回おこなう小レポート：15%、の評価を合算し、総合的に評価します。

教科書	参考図書
オリジナルの教科書を配布します	授業内で指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
4年次に卒業研究でアンケート調査やインタビュー調査などの「社会調査」を実施しようと考えている人はぜひとも受講してください。なお、期末レポートは毎回の授業への出席がなければ到底作成できないので、意欲ある人の積極的な参加を要件とします。

01	社会調査の目的
02	社会調査の意義・歴史・課題
03	社会調査の手順①：問題意識をもつ
04	社会調査の手順②：仮説の構築と調査方法の決定
05	社会調査の手順③：収集データの分析
06	社会調査の手順④：分析結果の解釈と調査結果の作成
07	因果関係と相関関係
08	統計データをもとにさまざまな分析をおこなう（e-Statを使用）
09	量的データ収集の方法――サンプリング（単純無作為抽出、層化抽出、多段抽出など）
10	質問紙調査票を作成する（ワーディングの重要性）
11	データ入力とさまざまな統計分析をおこなう（Excelでのクロス集計表・グラフの作成）
12	観察調査の実践（フィールドワーク、参与観察、行動観察など）
13	インタビュー調査の技法（アポイントメントの取り方、質問の仕方、インタビューの練習）
14	レポート・論文の書き方
15	リサーチ・リテラシーを身につけるためには
16	なし

2019年度シラバス

科目名:情報社会論	担当者:	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択必須

授業概要と方法
メディアの発達により我々は多くの情報を手に入れることができますが、多くの情報を得てもそれらすべてが有益なものであるとはいえません。しかも「知る」ということが優先され、ものごとを深く考えない傾向にあります。そこで本講座では、情報を「知る」こと、「考える」こと、そして「判断する」こと、そしてその情報を問題解決（対応）にいかに役立てていくかについて検討していきます。

授業の到達目標
情報を処理する力や情報を通じ自分以外の人とコミュニケーションする力（自分を表現する力・相手を理解する力）などを身につけること、情報を処理することによる問題解決（対応）学習の準備をすることが本講座の到達目標です。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
パソコンをはじめとするスマートフォン、タブレット等の通信ツールを使いこなしてください。

評価方法
ミニレポートの提出、課題提出により評価をします。ミニレポート・課題３０％、課題提出７０％です。

教科書	参考図書
適宜プリントを配布します。	特にありません。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常生活の中で伝達される情報に関心をもち、その意味を自分なりに考えてみてください。

01	講義概要
02	情報ってなに？
03	情報を処理することと問題解決（対応）
04	知ることと考えること
05	あなたならどうしますか？（その１）
06	地図を読む
07	あなたのコンピュータ、病気にかかっていませんか？
08	話す言葉と書く言葉
09	サインとシンボル
10	映像で考える・言葉で考える
11	あなたならどうしますか？（その２）
12	アナログとデジタル
13	都市伝説と昔話
14	あなたならどうしますか？（その３）
15	講義全体のまとめ
16	なし

科目名:インターンシップ（国内）	担当者:根尾　文彦	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本科目では学芸学部ディプロマポリシーにある、修得した知識に沿って批判的思考ができ、グルーバル化した社会に向けて理論的で創造的な発信ができる能力を身につけることを目指す。原則として夏季・春季休み期間を利用して、一般企業、各種団体などにおいて職場体験を通して、組織の仕組み、仕事の流れ及び労働への理解を深める。卒業後のキャリアプラン（就職活動を含む）の設定において、自分が将来希望する職種などについて実習を通して学ぶことは非常に有意義である。基本実習期間は2週間または60時間以上とする。

授業の到達目標
①一般社会は組織体制の中で成り立っており、その中で大切なチームワークとコミュニケーション力を実践で学ぶ。②実習では企業等が一般社会の中で如何に貢献しているか実体験を通して学習する。③卒業後のキャリアプランを見据えた業界情報を習得する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
社会人生活を意識して、新聞、本、ＴＶ等から様々な情報を入手し、特に社会情報に対して強い関心を持つ。
特にインターンシップ研修先の業界研究を行う。

評価方法
インターンシッププログラム全体を通した取り組み姿勢（60%）、受入れ機関の個人評価（10%）、研修日程の内容及びプレゼンテーションの内容（30%）などを総合して評価する。

教科書	参考図書
特になし	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　neo@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7307号室

01	インターンシップ説明会
02	インターンシップ受講申込み手続き（エントリーシート）
03	学内面接
04	外部講師などによるビジネスマナー研修
05	インターンシップ受入れ機関に関する学内事前研修①
06	インターンシップ受入れ機関に関する学内事前研修②
07	インターンシップ受入れ機関への事前挨拶訪問
08	インターンシップ受入れ機関にて実習①
09	インターンシップ受入れ機関にて実習②
10	インターンシップ受入れ機関にて実習③
11	インターンシップ受入れ機関にて実習④
12	インターンシップ受入れ機関にて実習⑤
13	インターンシップ受入れ機関にて実習⑥
14	インターンシップ学内事後研修（研修のまとめ）
15	インターンシップ体験発表
16	なし

2019年度シラバス

科目名:インターンシップA	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	2
受講者制限:Computer needed for presentation		単位数	1
		必須.選択	その他

授業概要と方法
Overview and Methods:
This course is related to the ability to understand language and other cultures as mentioned in SLADE's diploma policy.
Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO.

授業の到達目標
Goals/Objective of Course:
The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
The Overseas Internship program has to have at least 5 days (20 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees.
Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.
Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits.
Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.

評価方法
Evaluation Methods:
Actively participate in the internship program - 50%
Portfolio - 20%,
Journal - 10%
□Presentation - 20%

教科書	参考図書
Textbooks: supplies as needed	Reference Books and other Course Materials: supplies as needed

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
Students need to contact Overseas Internship and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.
Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members.
Students need to have access to a computer, the Internet and have Internet research skills.

01	To be developed for each volunteer actively on a case by case basis
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:インターンシップB	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	2
受講者制限:Computer needed for presentation		単位数	2
		必須.選択	その他

授業概要と方法
Overview and Methods:
This course is related to the ability to understand language and other cultures as mentioned in SLADE's diploma policy.
Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO.

授業の到達目標
Goals/Objective of Course: The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
The Overseas Internship program has to have at least 10 days (40 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees.
Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.
Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits.
Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.

評価方法
Evaluation Methods:
Actively participate in the internship program - 50%
Portfolio - 20%,
Journal - 10%
Presentation - 20%

教科書	参考図書
Textbooks: To be supplied as needed	Reference Books and other Course Materials: To be supplied as needed

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
Students need to contact Overseas Internship and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.
Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members.
Students need to have access to a computer, the Internet and have Internet research skills.

01	To be developed for each volunteer actively on a case by case basis
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:インターンシップC	担当者:	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	2
受講者制限:Computer needed for presentation		単位数	3
		必須.選択	その他

授業概要と方法
Overview and Methods:
This course is related to the ability to understand language and other cultures as mentioned in SLADE's diploma policy. Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO.

授業の到達目標
Goals/Objective of Course:
The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
The Overseas Internship program has to have at least 15 days (60 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees.
Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.
Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits.
Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.

評価方法
Evaluation Methods:
Actively participate in the internship program - 50%
Portfolio - 20%,
Journal - 10%
□Presentation - 20%

教科書	参考図書
Textbooks: To be supplied as needed	Reference Books and other Course Materials: To be supplied as needed

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
Students need to contact Overseas Internship and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.
Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members.
Students need to have access to a computer, the Internet and have Internet research skills.

01	To be developed for each volunteer actively on a case by case basis

科目名:インターンシップD	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	2
受講者制限:Computer needed for presentation		単位数	4
		必須.選択	その他

授業概要と方法
Overview and Methods:
This course is related to the ability to understand language and other cultures as mentioned in SLADE's diploma policy.
Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO.

授業の到達目標
Goals/Objective of Course:
The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
The Overseas Internship program has to have at least 20 days (80 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees.
Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.
Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits.
Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.

評価方法
Evaluation Methods:
Actively participate in the internship program - 50%
Portfolio - 20%,
Journal - 10%
□Presentation - 20%

教科書	参考図書
Textbooks: To be supplied as needed	Reference Books and other Course Materials: To be supplied as needed

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
Students need to contact Overseas Internship and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.
Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members.
Students need to have access to a computer, the Internet and have Internet research skills.

01	To be developed for each volunteer actively on a case by case basis
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:総合英語Ⅲ	担当者:内田　政一	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:必ずPlacement Testを受けること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。“Speaking of Childcare” で保育の場面で使用する英語を学び、“Active Communication with Phrases” では状況に応じた会話の流れを学習し、日常生活にも役立つ表現を覚えます。加えて、インターラクティブな学習法を利用して、保育現場につながる実践的な英語を学びます。

授業の到達目標
　保育現場で使用できる英語表現と、日常会話で役立つ表現を学び、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけます。とりわけ、アウトプットの量を増やすことで、知っている知識から使える知識へとつなげていきます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　必ずテキストを予習して授業に参加し、新たに学んだ表現や語彙はしっかりと復習すること。また、フレーズ集（Active Comunication with Phrases）からの確認テストを行う際には準備して受験すること。テキストには付属のSelf-Study用CDが用意されているため、通学などの時間を利用して繰り返し聞くようにすること。

評価方法
授業への参加度　30%　小テスト　30%　定期テスト40%

教科書	参考図書
Peter Vincent他 Speaking of Childcare（南雲堂）　内田政一他 Active Communication with Phrases（南雲堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書・辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませ、予習を欠かさないこと。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	Introduction & Placement Test
02	Class Orientation
03	Unit 1: What’s your name? ／ Phrase Learning 11
04	Unit 2: Where are you from?
05	Review (Unit 1 & 2) ／ Phrase Learning 12
06	Unit 3: Good morning!
07	Unit 4: Are you OK? ／ Phrase Learning 13
08	Review (Unit 3&4)
09	Mid-term Examination (Unit 1-4)
10	Unit 5: What are you doing? ／ Phrase Learning 14
11	Unit 6: How are you feeling?
12	Review (Unit 5&6) ／ Phrase Learning 15
13	Unit 7: What’s she like?
14	Unit 8: Do’s and Don’ts ／ Phrase Learning 16
15	Review (Unit 7&8)
16	Final Examination (Unit 5-8)

科目名:総合英語Ⅲ	担当者:佐藤　裕子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:必ずPlacement Testを受けること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能である，Listening・Speaking・Reading・Writeningをバランスよく学習していく。授業への積極的な参加、他者と交流・協力し、学び合う力、課題を発見、理解、解決し得る力をつけるために、2冊のテキストを使って学ぶ。『フレーズからはじめる英語ドリル』にあるフレーズは、自習・暗記し、小テストで習熟度を確認して、重要なフレーズの定着を図る。Speaking of Childcareでは、保育園や幼稚園で使える英語を学ぶ。随時子供たち向けの英語の歌、絵本も取り入れ、授業への積極的な参加を促す。グループで協力をしてPresentationに備える。

授業の到達目標
保育現場で使用出来る英語表現と、日常会話で役立つ表現を学び，4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。具体的には、身近な題材のフレーズなど、英会話をするのにすぐに役に立つ重要表現について学び、理解する。保育現場で必要な会話、単語を覚え、それに関連した問題を通して内容を理解する。英語の歌を歌ったり、英語の絵本を読むこと、Presentationに参加することで、授業への積極的な参加、グループワークができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
『フレーズからはじめる英語ドリル』の小テストに備えて、会話のフレーズと用いる単語のつづりを覚える。Speaking of Childcare の方は、毎回必ず予習・復習をして、2回のReview Testに備える。Presentationは、グループのメンバーで何をするかを考えてしっかりと準備をして臨み、報告レポートの準備をする。各授業に対して、4時間程度の授業外学修が求められる。

評価方法
授業参加度20%、小テスト・レポートなど30%、Review Test 50%

教科書	参考図書
Peter Vincent他著　Speaking of Child Care　南雲堂　内田政一他著『フレーズからはじめる英語ドリル』南雲堂	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には必ず英和辞書を持参し、分からない単語はその都度調べること。英語を学ぶことは、あらゆる可能性をもたらしてくれる。連絡先は授業で開示する。

01	Placement Test
02	Introduction
03	Unit1: What's your name?　Phrase learning 11
04	Unit2: where are you from?
05	Review (Unit 1/2)　Phrase learninng 12
06	Unit3: Good morning!
07	Unit4: Are you OK?　phrase learning 13
08	Review (Unit 3/4)
09	Review Test No1 (Unit 1-4)　presentation の説明とグループ分け
10	Unit5: What are you doing?　phrase learning 14 Chapter4・バシャバシャ、水しぶきⅡ　Phrase learning
11	Unit6: How are you feeling?
12	Review (Unit 5/6)　Phrase learning 15
13	Presentation　Unit7: What's she like?
14	Unit8: Do's and don'ts　Phrase learning16
15	Review (Unit 7/8)
16	Review Test No2 (Unit 5-8)

2019年度シラバス

科目名:総合英語Ⅲ	担当者:高橋　妙子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:必ずPlacement Testを受けること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。“Speaking of Childcare” で保育の場面で使用する英語を学び、“Active Communication with Phrases” では状況に応じた会話の流れを学習し、日常生活にも役立つ表現を覚えます。テキスト以外にも季節に合わせたActivity にチャレンジしたり、DVDや英語の歌などを通して、英会話と文化的な知識を身につけます。

授業の到達目標
保育現場で使用できる英語表現と、日常会話で役立つ表現を学び、４技能のバランスが取れた総合的な英語力を身につけます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で学んだ表現や語彙は必ず覚え、課題や復習はしっかりと行うこと。 フレーズ集からの確認テストを行う際には準備をして受けること。２冊のテキストにはSelf-Study 用のCDがついているので、通学などの時間を利用して繰り返し聞いて下さい。

評価方法
Activity (Pair & Group Work) ２０％、 Quiz ３０％、 Review Test５０％

教科書	参考図書
“Speaking of Childcare”(南雲堂) P. Vincent & N. Nakazato 著 “Active Communication with Phrases” (南雲堂) 内田政一他著	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には辞書必携（電子辞書、辞書アプリOK）。将来保育現場や日常会話で使うことを想定して、復習のための時間は十分に確保すること。

01	Placement Test & Introduction
02	Class Orientation, Classroom English
03	Unit 1: What's your name?　　Phrase Learning 11
04	Unit 2 : Where are you from?
05	Review (Unit 1 & 2)　　Phrase Learning 12
06	Unit 3 : Good morning!
07	Unit 4 : Are you OK?　　Phrase Learning 13
08	Review (Unit 3 & 4)
09	Mid-term Examination (Unit1-4)
10	Unit 5 : What are you doing?　　Phrase Learning 14
11	Unit 6 : How are you feeling?
12	Review (Unit 5 & 6)　　Phrase Learning 15
13	Unit 7 : What's she like?
14	Unit 8 : Do's and don'ts　　Phrase Learning 16
15	Review (Unit 7 & 8)
16	Final Examination (Unit 5-8)

2019年度シラバス

科目名:総合英語Ⅲ	担当者:小野　克志	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:必ずPlacement Testを受けること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の４技能であるListening･Speaking･Reading･Writingをバランスよく学習していきます。“Speaking of Childcare”で保育の場面で使用する英語を学び、“Active Communication with Phrases”では状況に応じた会話の流れを学習し、日常にも役立つ表現を覚えます。加えて、インタラクティブな学習法を利用することで保育現場につながる実践的な英語を学びます。

授業の到達目標
　保育現場で使用できる英語表現と、日常会話で役立つ表現を学び、４技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけます。とりわけ、アウトプットの量を増やすことで知っている知識から使える知識へとつなげていきます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　必ずテキストを予習して授業に参加し、新たに学んだ表現や語彙はしっかりと復習すること。また、フレーズ集（Active Communication with Phrases）からの確認テストを行う際には準備して受験すること。テキストには付属のSelf-Study用CDが用意されているため、通学などの時間を利用して繰り返し聞くようにすること。

評価方法
授業への参加度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

教科書	参考図書
中里菜穂子他 Speaking of Childcare（南雲堂）　内田政一他 Active Communication with Phrases（南雲堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書・辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題）は、各自で済ませ、予習を欠かさないこと。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内で知らせる。

01	Introduction & Placement Test
02	Class Orientation
03	Unit 1 : What's your name? / Phrase Learning 11
04	Unit 2 : Where are you from?
05	Review (Unit 1 & 2) / Phrase Learning 12
06	Unit 3 : Good morning!
07	Unit 4 : Are you OK? / Phrase Learning 13
08	Review (Unit 3 & 4)
09	Mid-term Examination (Unit 1-4)
10	Unit 5 : What are you doing? / Phrase Learning 14
11	Unit 6 : How are you feeling?
12	Review (Unit 5 & 6) / Phrase Learning 15
13	Unit 7 : Wht's she like?
14	Unit 8 : Do's and Don'ts / Phrase Learning 16
15	Review (Unit 7 & 8)
16	Final Exam

2019年度シラバス

科目名:総合英語Ⅳ	担当者:内田　政一	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。“Speaking of Childcare” で保育の場面で使用する英語を学び、“Active Communication with Phrases” では状況に応じた会話の流れを学習し、日常生活にも役立つ表現を覚えます。加えて、インターラクティブな学習法を利用して、保育現場につながる実践的な英語を学びます。

授業の到達目標
　保育現場で使用できる英語表現と、日常会話で役立つ表現を学び、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけます。とりわけ、アウトプットの量を増やすことで、知っている知識から使える知識へとつなげていきます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　必ずテキストを予習して授業に参加し、新たに学んだ表現や語彙はしっかりと復習すること。また、フレーズ集（Active Communication with Phrases）からの確認テストを行う際には準備して受験すること。テキストには付属のSelf-Study用CDが用意されているため、通学などの時間を利用して繰り返し聞くようにすること。

評価方法
授業への参加度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

教科書	参考図書
Peter Vincent他 Speaking of Childcare（南雲堂）　内田政一他 Active Communication with Phrases（南雲堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書・辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませ、予習を欠かさないこと。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	Activity after Summer Vacation
02	Unit 9: Let’s eat lunch! ／ Phrase Learning 17
03	Unit 10: What do you want to do?
04	Review (Unit 9-10) ／ Phrase Learning 18
05	Extra Activity
06	Unit 11: What do you have to do? ／ Phrase Learning 19
07	Unit 12: I need to do potty
08	Review (Unit 11&12) ／ Phrase Learning 20
09	Extra Activity
10	Unit 13: Good job!Unit 14: Injuries and emergencies
11	Unit 14: Injuries and emergencies
12	Unit 15: We’re going to go outside
13	Review (Unit 13-15)
14	Extra Activity
15	Review (Unit 9-15)
16	Final Examination (Unit 9-15)

2019年度シラバス

科目名:総合英語Ⅳ	担当者:佐藤　裕子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
前期に続いて、この授業では、英語の運営能力の4技能である、Listening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していく。授業への積極的な参加、他者との交流・協力をし、学び合う力、課題を発見、理解、解決し得る力をつける。具体的には『フレーズからはじめる英語ドリル』にあるフレーズは、自習・暗記をして定着を図る。Speaking of Childcare では、では保育園や幼稚園で使える英語をさらに学んでいく。また子供たち向けの英語の歌を歌うこと、英語の絵本の翻訳などを通じて、授業への積極的参加をし、クラスメートとの協力をしていく。、将来役に立つ英語の向上を目指す。

授業の到達目標
前期に続いて、保育現場で使用出来る英語表現と、日常で役立つ表現を学び、4技能のバランスがとれた綜合的な英語力を身に着けるために、授業への積極的な参加をすることを目標にする。身近な題材のフレーズをなど、すぐに役に立つ重要表現について学び、理解する。保育現場で必要な会話・単語を覚え、それに関する練習問題を解きながら、英語での表現の仕方を身につける。歌、翻訳などでは、Group Workを行い、クラスメートと協力をして出来るようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
後期は実習の都合により、授業計画が変更になることもあるが、Speaking of Childcare ではしっかりと予習・復習をしてReview Testに備えてほしい。絵本の翻訳・DVDの鑑賞のレポートも、クラスメートで助け合って、授業外でも丁寧に取り組んでほしい。『フレーズからはじめる英語ドリル』の小テストに備えて、会話のフレーズと単語のつづりを覚えること。各授業に対して、4時間程度の授業外学修が求められる。

評価方法
授業参加度20%、小テスト・レポートなど30%、Review Test 50%

教科書	参考図書
Peter Vincent他著　Speaking of Childcare　南雲堂　内田政一他著 『フレーズからはじめる英語ドリル』南雲堂	授業で指示をする

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には必ず英和辞書を持参して、分からない単語はその場で調べる。質問は随時受け付ける。連絡先は、授業で開示する。

01	Introduction
02	Unit 9: Let's eat lunch!　Phrase learning 17 Unit9: Let's eat lunch!　Phrase learning 17
03	Unit 10: What do you want to do? Unit10: What do you want to do?
04	Review (Unit 9/10)　Phrase learning 18 Chapter8・お誕生日おめでとうⅡ　Phrase Learning 15 Chapter8・お誕生日おめでとうⅡ　Phrase Learning 15
05	DVD鑑賞 (Alice in Wonderland)　英語の絵本の翻訳の説明 Chapter9・子どもと遊びⅠ　DVD鑑賞(husigin Chapter9 Chapter９・子どもと遊びⅠ　DVD鑑賞 (不思議の国のアリス)
06	Uni t11: What do you hove to do?　Phrase learning 19 Chapter９・子どもと遊びⅡ　英語の絵本の翻訳 (不思議の国のアリス・グループワーク) Chapter9・子どもと遊びⅡ　英語の絵本の翻訳 (不思議の国のアリス・グループワーク)
07	Unit 12: I need to go potty
08	Review (Unit11/12)　Phrase learning 20 Review(unit11/12)　P Review (Unit 11/12)　Phrase learning 20
09	英語の絵本の翻訳 (Alice in Wonderland・Group Work)
10	Unit 13: Good Job!　Christmass Songs
11	Unit 14: Injuries and emergencies
12	Unit 15: We're going to go outside
13	Review (13-15)
14	英語の絵本の翻訳 (Alice in Wonderland・Group Work)
15	Review (Unit 9-15)
16	Review Test

2019年度シラバス

科目名:総合英語Ⅳ	担当者:高橋　妙子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。“Speaking of Children” で保育の場面で使用する英語を学び、“Active Communication with Phrases” では状況に応じた会話の流れを学習し、日常生活にも役立つ表現を覚えます。テキスト以外にも季節に合わせたActivity にチャレンジしたり、DVDや英語の歌などを通して、英会話と文化的な知識を身につけます。

授業の到達目標
保育現場で使用できる英語表現と、日常会話で役立つ表現を学び、４技能のバランスが取れた総合的な英語力を身につけます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で学んだ表現や語彙は必ず覚え、課題や復習はしっかりと行うこと。 フレーズ集からの確認テストを行う際には準備をして受けること。２冊のテキストにはSelf-Study 用のCDがついているので、通学などの時間を利用して繰り返し聞いて下さい。

評価方法
Activity (Pair & Group Work) ２０％、 Quiz ３０％、 Review Test５０％

教科書	参考図書
“Speaking of Children”(南雲堂) P. Vincent & N. Nakazato 著 “Active Communication with Phrases” (南雲堂) 内田政一他著	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には辞書必携（電子辞書、辞書アプリOK）。将来保育現場や日常会話で使うことを想定して、復習のための時間は十分に確保すること。

01	Activity after Summer Vacation	
02	Unit 9 : Let's eat lunch!	Phrase Learning 17
03	Unit 10 : What do you want to do?	
04	Review (Unit 9-10)	Phrase Learning 18
05	Extra Activity	
06	Unit 11 : What do you have to do?	Phrase Learning 19
07	Unit 12 : I need to do potty	
08	Review (Unit 11-12)	Phrase Learning 20
09	Extra Activity	
10	Unit 13 : Good job!	
11	Unit 14 : Injuries and emergencies	
12	Unit 15 : We're going to go outside	
13	Review (Unit 13-15)	
14	Extra Activity	
15	Review (Units 9-15)	
16	Final Examination (Unit 9-15)	

2019年度シラバス

科目名:総合英語Ⅳ	担当者:小野　克志	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の４技能であるListening･Speaking･Reading･Writingをバランスよく学習していきます。“Speaking of Childcare”で保育の場面で使用する英語を学び、“Active Communication with Phrases”では状況に応じた会話の流れを学習し、日常にも役立つ表現を覚えます。加えて、インタラクティブな学習法を利用することで保育現場につながる実践的な英語を学びます

授業の到達目標
　保育現場で使用できる英語表現と、日常会話で役立つ表現を学び、４技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけます。とりわけ、アウトプットの量を増やすことで、知っている知識から使える知識へとつなげていきます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　必ずテキストを予習して授業に参加し、新たに学んだ表現や語彙はしっかりと復習すること。また、フレーズ集（Active Communication with Phrases）からの確認テストを行う際には準備して受験すること。テキストには付属のSelf-Study用CDが用意されているため、通学などの時間を利用して繰り返し聞くようにすること。

評価方法
授業への参加度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

教科書	参考図書
中里菜穂子 Speaking of Childcare（南雲堂）　内田政一他 Active Communication with Phrases（南雲堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書・辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題）は、各自で済ませ、予習を欠かさないこと。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内で知らせる。

01	Activity after Summer Vacation
02	Unit 9 : Let's eat linch! / Phrase Learning 17
03	Unit 10 : What do you want to do?
04	Review (Unit 9 & 10) / Phrase Learning 18
05	Extra Activity
06	Unit 11 : What do you have to do? / Phrase Learning 19
07	Unit 12 : I need to do potty
08	Review (Unit 11 & 12) / Phrase Learning 20
09	Extra Activity
10	Unit 13 : Good job!
11	Unit 14 : Injuries and emergencies
12	Unit 15 : We're going to go outside
13	Review (Unit 13-15)
14	Extra Activity
15	Review (Unit 9-15)
16	Final Examination　(Unit 9-15)

2019年度シラバス

科目名:中国語と文化Ⅲ	担当者:高　文軍	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:初級中国語を習得した者		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 この授業は1年次中国語を習得した学生を対象とする。初歩的な中国語でのコミュニケーションできる上、少しずつレベルアップ。問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、中国や中国文化に対する理解を深める。方法として、基本テキストを使い、単語、文法の理解、練習問題の解き方まで、積み重ねて進む。特に発音の練習を重視すること。
授業の到達目標 基本発音を復習した後、ワンステップ上の中国語を学ぶ。物の尋ね方と答え、疑問など簡単な基本表現を、繰り返し練習することによって身につけ、自分の口から言える、使えることが最終目標である。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 授業時間内で学んだ内容の復習と次の事前予習など。一週間に2時間以上の課外学習が必要。　映画、音楽、時事など中国文化に関することに興味を持たせること。
評価方法 　平常点（授業への参加、貢献度、宿題、小テストなど）　40%。口頭テスト　10%。　　定期試験　50%。

教科書	参考図書
『初級中国語 教科書＋ドリル』 白帝社	『ことばの散歩道』Ⅰ～Ⅳ　白帝社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 研究室は7号館7322室、オフィスアワーは、月曜日２限 メールアドレス：gaowj@ohkagakuen-u.ac.jp

01	1年次要点チェック、復習
02	ドリル1～20
03	第21課　学校から遠いですか
04	第22課　中国語が話せますか
05	第23課　中国に行ったことがありますか
06	第24課　それとも
07	第25課　何をしているのですか
08	听写（五）体験学習
09	第26課　昼ご飯を食べましたか
10	第27課　私が作った料理
11	第28課　聞いて分かりましたか
12	インターナショナルデイ
13	中国映画鑑賞
14	復習　口頭テスト
15	総まとめ、復習
16	定期試験

2019年度シラバス

科目名:中国語と文化Ⅳ	担当者:高　文軍	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:初級中国語を習得した者		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 この授業は1年次中国語を習得した学生を対象とする。初歩的な中国語でのコミュニケーションできる上、少しずつレベルアップ。問題練習を通して学習事項の定着を図るとともに、視聴覚資料を使って、中国や中国文化に対する理解を深める。方法として、基本テキストを使い、単語、文法の理解、練習問題の解き方まで、積み重ねて進む。特に発音の練習を重視すること。
授業の到達目標 基本発音を習得した上で、中級中国語を学ぶ。物の尋ね方と答え、疑問など簡単な基本表現を、繰り返し練習することによって身につけ、自分の口から言える、使えることが最終的な目標である。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 授業時間内で学んだ内容の復習と次の事前予習など。一週間に2時間以上の課外学習が必要。　映画、音楽、時事など中国文化に関することに興味を持つこと。
評価方法 平常点（授業への参加、貢献度、宿題、小テストなど）　40%。口頭テスト　10%。　　定期試験　50%。

教科書	参考図書
『初級中国語 教科書＋ドリル』 白帝社 ほかに補充資料	『ことばの散歩道』Ⅰ～Ⅳ　白帝社ほか

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 中国語に興味を持つ事は何より大事。 研究室は7号館7322室、オフィスアワーは、月曜日２限 メールアドレス： gaowj@ohkagakuen-u.ac.jp

01	前期要点チェック、単語の聞き取り練習
02	第２９課　お待たせしました
03	第３０課　我が家へようこそ
04	听写２６～３０　おわりに
05	ドリル1～３０復習（１）
06	ドリル1～３０復習（２）
07	小テスト
08	映画で学ぶ中国語（１）
09	映画で学ぶ中国語⑵
10	映画で学ぶ中国語⑶
11	DVD「中国語会話」⑴
12	DVD「中国語会話」⑵
13	DVD「中国語会話」⑶
14	要点整理、ポイント復習
15	総復習
16	定期試験

2019年度シラバス

科目名:韓国語と文化Ⅲ	担当者:都　恩珍	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:韓国語と文化Ⅱを履修した者、またはそれ相当の能力があると認められる者に限る。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本学のディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力（国際社会で活躍するために必要な知識）」と関連しています。いろいろな文法項目や表現を学びながら、授業はテキストを中心に進めますが、別配布の資料を使って文型練習をしたりペアーワークで会話の練習をします。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深めます。International Dayにはグループで取り組んだ文化学修内容を発表します。単元ごとに確認テストを行います。

授業の到達目標
動詞・形容詞の活用をしっかり覚え、対話形式の会話文に慣れることを目標にします。
目指す修得語彙数は500語です。
少なくても韓国文化の一つや二つのテーマについて理解でき、説明できるようになります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：CDを聞いて音読の練習をしてください。必要時間：約1時間
事後学修：単語帳に単語をまとめ、覚えてください。必要時間：約１時間

評価方法
確認テスト3回　80%、単語帳・課題　10%　リフレクション・授業態度　10%

教科書	参考図書
楽しもう韓国語（白帝社）金孝珍　⇒韓国語と文化Ⅱで使用したテキスト	授業中に提示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回の授業のリフレクションを復習・予習に結びつけましょう。連絡方法は授業中に提示します。　オフィスアワー：水曜日2限　・諸事情により予定を変更することもあります。

01	ガイダンス、韓国語と文化Ⅰ・Ⅱの復習
02	第5課　한국영화를 좋아해요?　用言文の練習
03	第5課　한국영화를 좋아해요?　用言文の練習
04	第6課　별로 안 멀어요?　否定表現の練習
05	第6課　별로 안 멀어요?　否定表現の練習
06	応用練習、確認テスト（１）
07	第7課　생일은 언제예요?　漢数字を使った表現
08	第7課　생일은 언제예요?　漢数字を使った表現の練習
09	第8課　일곱 시부터 아홉 시까지예요　固有数字を使った表現
10	第8課　일곱 시부터 아홉 시까지예요　固有数字を使った表現の練習
11	応用練習、確認テスト（２）
12	文化体験（International Day）　＊教室変更
13	第９課　지난주 토요일에 콘서트에 갔어요　過去形
14	第９課　지난주 토요일에 콘서트에 갔어요　過去形の練習
15	応用練習、確認テスト（３）
16	なし

2019年度シラバス

科目名:韓国語と文化Ⅳ	担当者:都　恩珍	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:韓国語と文化Ⅲを履修した者、またはそれ相当の能力があると認められる者に限る。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本学のディプロマポリシー「グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力（国際社会で活躍するために必要な知識）」と関連しています。授業はテキストを中心に進めますが、別配布の資料を使って文型練習をしたり、ペアーワークで会話の練習をします。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深めます。単元ごとに確認テストを行います。

授業の到達目標
文体や表現を使い分けながら会話ができ、動詞・形容詞の過去形活用ができるようになります。
やや複雑な文型と表現を学びながら、いろいろな場面でのやりとりができることを目標にします。
目指す修得語彙数は1000語です。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：CDを聞いて音読の練習をしてください。必要時間：約1時間
事後学修：単語帳に単語をまとめ、覚えてください。必要時間：約１時間

評価方法
確認テスト６回　80%、単語帳・課題　10%、授業態度・リフレクション　10%

教科書	参考図書
楽しもう韓国語（白帝社）金孝珍　⇒韓国語と文化Ⅲのテキストを継続使用	授業中に提示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回の授業のリフレクションを復習・予習に結びつけましょう。連絡方法は授業中に提示します。　オフィスアワー：水曜日2限　　・諸事情により予定を変更することもあります。

01	ガイダンス・韓国語と文化Ⅲの復習
02	第10課　정말 젊어 보이시네요 尊敬表現
03	第10課　정말 젊어 보이시네요 尊敬表現の練習、確認テスト（１）
04	第11課　연휴 때 뭐 하고 싶어요?　希望表現
05	第11課　연휴 때 뭐 하고 싶어요?　希望表現の練習、確認テスト（２）
06	第12課　길이 많이 막혀서 늦었어요　意志・推量表現
07	第12課　길이 많이 막혀서 늦었어요　意志・推量表現の練習、確認テスト（３）
08	文化体験（韓国の伝統衣装）
09	第13課　부모님이 일본으로 여행을 가셨어요.　尊敬の過去形
10	第13課　부모님이 일본으로 여행을 가셨어요.　尊敬の過去形の練習、確認テスト（４）
11	第14課　조금 일찍 출발할까요?　仮定・条件表現
12	第14課　조금 일찍 출발할까요?　仮定・条件表現の練習、確認テスト（５）
13	第15課　한번 먹어 봐도 돼요? 意思・許可表現
14	第15課　한번 먹어 봐도 돼요? 意思・許可表現の練習、確認テスト（６）
15	文化体験（韓国の食文化）　　＊教室変更
16	なし

2019年度シラバス

科目名:日本語表現Ⅲ	担当者:入口　愛, 三宅　俊浩	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	その他

授業概要と方法
　「日本語表現」科目では、大学生に必要な日本語運用スキルを身につけることを目的とする。「日本語表現Ⅲ」では、実践を通して学術的な文章を書く力を養う。さらに、毎時おこなう課題を通して、ことばの知識を増やし、さらに時事問題への関心を高める。授業では、新聞記事を用いて意見文を作成する。また、漢字テストを実施することで漢字の知識を増やす。

授業の到達目標
・文章表現上の基礎知識を知り、学術的な文章を書くことができる。・資料の概要を正確に読みとることができる。・ことばに関する知識を増やし、かつ時事問題への関心を高め、日常生活で活かすことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
漢字の学習に取り組むこと。可能な限り、新聞に目を通すこと。

評価方法
提出課題：60%、授業への参加態度：20%、漢字テスト：20%をふまえ、総合的に評価する。

教科書	参考図書
松浦照子 ほか『実践 日本語表現』ナカニシヤ出版、日本漢字能力検定協会『漢検10日間でできる練習問題 2級』	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業担当者との連絡は原則としてメールにておこなう。欠席する場合は、必ず授業担当者へ連絡すること。メールアドレスは授業にて通知する。

01	オリエンテーション　プレテストの実施
02	新聞を活用する　“新聞わーく”の作り方
03	敬語の再確認（尊敬語）　イメージをことばで伝える
04	敬語の再確認（謙譲語）　学内の風景をことばで説明する
05	敬語の再確認（丁寧語・美化語）　分かりやすい説明に必要なことを理解する
06	パラフレーズを考える（和語と漢語）
07	パラフレーズを考える（簡潔な表現）
08	パラフレーズを考える（名詞化）
09	新聞を活用する　投書欄を読む
10	新聞を活用する　投書欄から時代を考える
11	新聞を活用する　社説を読む
12	賛否両論のあるテーマを考える（ブレーンストーミング）
13	賛否両論のあるテーマを考える（自分の意見をまとめる）
14	賛否両論のあるテーマを考える（意見文を書く）
15	授業のまとめおよび漢字確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:日本語表現Ⅳ	担当者:入口　愛, 三宅　俊浩	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	その他

授業概要と方法
　「日本語表現」科目では、大学生に必要な日本語運用スキルを身につけることを目的とする。「日本語表現Ⅳ」では、実践を通して考える力、書く力を総合的に高める。授業では、新聞記事等の複数の資料を用いて多角的にテーマについて考え、自分の見解を発表する。また、漢字、敬語、時事問題に関する問題を毎時実施し、その知識を増やす。

授業の到達目標
・複数の資料を読み、テーマについて多角的に考えることができる。・場面にあった適切な表現で、伝えるべきことがらを相手に伝えることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
漢字の学習に取り組むこと。可能な限り、新聞に目を通すこと。

評価方法
提出課題：50%、授業への参加態度：20%、時事問題に関するレポート：10%、漢字テスト：20%をふまえ、総合的に評価する。

教科書	参考図書
松浦照子 ほか『実践 日本語表現』ナカニシヤ出版、日本漢字能力検定協会『漢検10日間でできる練習問題 2級』	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業担当者との連絡は原則としてメールにておこなう。欠席した場合は、必ず授業担当者へ連絡すること。メールアドレスは授業にて通知する。

01	オリエンテーション
02	自分をかたちづくることばを探す
03	ことばをポスターにする
04	互いのポスターを鑑賞する
05	「定義する」ことの重要性を理解する
06	定義の方法を学ぶ
07	定義をしたうえで、意見を述べる（資料の読解、整理）
08	定義をしたうえで、意見を述べる（考察）
09	事実の背景・問題点を考える（できごとの確認）
10	事実の背景・問題点を考える（できごとの背景・問題点の導出）
11	事実の背景・問題点を考える（考察）
12	時事問題を考える（テーマの設定、資料収集）
13	時事問題を考える（資料の読解および整理）
14	時事問題を考える（考察）
15	時事問題を考える（意見文の執筆）および漢字確認テスト
16	なし

科目名:日本国憲法	担当者:早野　暁	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:不要		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　法の支配（法による統治）、それは自由社会を理想とする国家にとっての基本原理である。しかし国民の福祉のために作り出される法律こそが人民の自由を不当に制約する性質を内在させている。恣意的な統治権の行使を防止する目的で権力分立の発想が生まれたこと、また、多数派による少数派の抑圧の防止の方便として憲法が存在し、かつ、司法府に違憲立法審査権があることを理解するための講義である。

授業の到達目標
　国民個人の「自由」と国の統治権の行使の結果実現される「正義」というものが相反する作用の関係にあることを理解できる。基本権あるいは人権思想が発達してきた歴史上の経緯を知り、三権分立の目的が理解できること。権利や自由には内在的な制約があり、国民はこれを濫用せずに公共の福祉に反しない形で行使しなければならないことの真意を理解できる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業計画に示した各回の項目を事前に予習し、理解の困難な箇所を把握しておくこと。授業の後には争点や論点が何か、つまり、何が問題となり何が解決策の基準となるかを整理できるように復習すること。統治制度や法制度の基本理念を最終的には全体構造として捉えられるように、基本権各論を勉強すること。各項目で扱った判例（裁判所の判断）の射程範囲を理解するにとどまらず、判例の立場の当否を充分な理由を示して検討しうるだけの知見・素養を体得できることが望ましい。

評価方法
学期末定期試験（論述筆記試験）の得点成績で評価する。

教科書	参考図書
森口佳樹ほか著『ワンステップ憲法』嵯峨野書院	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
堅苦しく難解なイメージを抱かれやすい「憲法学」や「法学」ですが、できるだけ分かりやすく説明しますので、少しでも興味のある方は足を踏み入れてみてはどうですか。

01	憲法を学ぶ前に。なぜ法により国（社会）を統治するのか。
02	紛争解決の基準。法源の種類。
03	基本権と公共の福祉。法の下の平等。
04	思想・良心の自由。表現の自由。
05	財産権。営業の自由。職業選択の自由。
06	信教の自由。
07	勤労者の権利。労働基本権。
08	裁判を受ける権利。裁判員制度。
09	生存権。健康で文化的な最低限度の生活とは何か。
10	刑事司法制度。人身の自由。
11	戦争放棄と自衛権。
12	民主主義の長所と短所。議院内閣制。
13	憲法と条約。
14	保育事業と憲法。
15	全講義の総復習。
16	学期末試験

科目名:海外研修Ａ	担当者:井川　恵理,都　恩珍,高　文軍	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	2
受講者制限: パソコン使用		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解し、論理的な発信ができる能力」に関連している。海外研修Aは、２週間以上の現地研修を原則とし、英語以外の言語および言語環境で生活する中で社会や文化への理解を深め、語学力を伸ばすことを目的とする。
A. Coure Description
担当者と各自相談の上、適切なプログラム、国、地域での語学研修を含め、文化・社会理解のための海外研修を行う。２～３週間、毎週１５時間以上（語学研修充実のためには週20時間以上が望ましい）の語学研修を含む内容を原則とする（４週間以上は「海外研修B」として登録するので注意すること）。
B. General Approach
説明会の後、研修を希望する学生は、各担当者（中国研修は高、韓国研修は都、それ以外は井川）と面談の日程を決め、研修希望内容に合致したプログラムの検討を始める。担当者が推薦する旅行業者等を活用することが望ましい。各自が選んだプログラムの場合、その内容や担当旅行業者について確認が必要となる。
C. Relationship with Other Courses 中国語・韓国語・スペイン語関係の諸科目、International Relations, Asian Studies, American Studies, British Studies　等

授業の到達目標
本研修を実施する者は、各自、次の項目に基づき目標を定めること。
１．語学能力の向上
２．滞在地における社会、生活、文化理解
３．研修の準備を自分で行い、外国での実践による、自律した学修者としての自覚を持つ

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
本研修にあたっては、次の手順で準備、実践、事後課題提出・発表を行う。
１．研修実施地については各自が選択可能。大学が参加者を募る研修、信頼できる旅行会社等が提供するプログラムからの選択、独自に渡航先の教育機関等に直接申し込むことも可能である。いずれの場合も、どの言語をどのような環境で学ぶか、また安全性について事前に外務省HP等で確認した上で決定する。＜実施２ヶ月前までに＞
２．各自研修の目標を事前にたて、日誌、発表や報告書内にて、その達成度について確認する。
３．研修時間数　週１５時間以上　語学研修充実のため、可能な限り週20時間以上のコースを受講すること。
４．上記プログラムを担当者に示し、研修計画書を所定の日時までに提出した上で実施許可を得る。
５．現地での研修の日誌。
６．帰国後の課題として、日誌と報告書を提出し、所定の日時に学内で研修内容についての発表を他学生、教員の前で行う。
７．事前・事後の学修時間は週４時間とする。

評価方法
日誌40%、ポートフォリオ（計画書、研修後報告書　日本語1200字程度または英語1000語程度）30%、学内プレゼンテーション30%

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
説明会への出席、担当者との打ち合せを欠かさず行い、事前の準備、渡航先の安全確認を怠らないこと。

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:海外研修Ｂ	担当者:井川　恵理,都　恩珍,高　文軍	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解し、論理的な発信ができる能力」に関連している。海外研修Aは、英語以外の言語および言語環境で生活する中で社会や文化への理解を深め、語学力を伸ばすことを目的とする。
A. Coure Description
担当者と各自相談の上、適切なプログラム、国、地域での語学研修を含め、文化・社会理解のための海外研修を行う。４週間以上、毎週１５時間以上（語学研修充実のためには週20時間以上が望ましい）の語学研修を含む内容を原則とする（２～３週間を希望する場合は「海外研修A」として登録するので注意すること）。
B. General Approach
説明会の後、研修を希望する学生は、各担当者（中国研修は高、韓国研修は都、それ以外は井川）と面談の日程を決め、研修希望内容に合致したプログラムの検討を始める。担当者が推薦する旅行業者等を活用することが望ましい。各自が選んだプログラムの場合、その内容や担当旅行業者について確認が必要となる。
C. Relationship with Other Courses 中国語・韓国語・スペイン語関係の諸科目、International Relations, Asian Studies, Oceanian Studies,American Studies, British Studies　等

授業の到達目標
本研修を実施する者は、各自、次の項目に基づき目標を定めること。
１．語学能力の向上
２．滞在地における社会、生活、文化理解
３．研修の準備を自分で行い、外国での実践による、自律した学修者としての自覚を持つ

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
本研修にあたっては、次の手順で準備、実践、事後課題提出・発表を行う。
１．研修実施地については各自が選択可能。大学が参加者を募る研修、信頼できる旅行会社等が提供するプログラムからの選択、独自に渡航先の教育機関等に直接申し込むことも可能である。いずれの場合も、どの言語をどのような環境で学ぶか、また安全性について事前に外務省HP等で確認した上で決定する。＜実施２ヶ月前までに＞
２．各自研修の目標を事前にたて、日誌、発表や報告書内にて、その達成度について確認する。
３．研修時間数　週１５時間以上　語学研修充実のため、可能な限り週20時間以上のコースを受講すること。
４．上記プログラムを担当者に示し、研修計画書を所定の日時までに提出した上で実施許可を得る。
５．現地での研修の日誌。
６．帰国後の課題として、日誌と報告書を提出し、所定の日時に学内で研修内容についての発表を他学生、教員の前で行う。
７．事前・事後の学修時間は週８時間とする。

評価方法
日誌40%、ポートフォリオ（計画書、研修後報告書　日本語1200時程度または英語1000語程度）30%、学内プレゼンテーション30%

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
説明会への出席、担当者との打ち合せを欠かさず行い、事前の準備、渡航先の安全確認を怠らないこと。

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:現代社会と女性	担当者:嶋守　さやか	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択必須

授業概要と方法
この授業は「自分を知る」科目群の一つである。授業では、現代の日本および世界の子ども、女性、環境の状況と保育についての現状を把握し、一見男女平等社会に見える現代社会で女性はどういう問題をかかえているのか。また、それらの問題が生じる社会・歴史的な背景を理解し、その問題解決の視点を保育に生かす方法について考察します。

授業の到達目標
　現代女性の結婚・出産・労働の現状を学び、女性のライフコースについて考察することで、保育・子育て支援サービスを利用する女性が置かれている社会的立場やその現状が説明できるようになる。女性としての主体的な生き方とは何かを理解し、具体的将来像を描けるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　単元ごとに配布するワークシートの解答を準備学修とします。その上で授業に参加し、各学生がワークシートに記述した内容の確認、事後課題への解答を事後学修として行います。授業期間中に３回、理解度評価を行いますが、各理解度評価の前週にその内容についての解説を行います。

評価方法
評価は、理解度評価70%、毎授業後に提出するミニコメントシート（毎授業後のまとめ）30%にて行います。

教科書	参考図書
プリントを配布して使用します。	適宜、指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書として使用する資料を積極的に通読すること。授業内容に関する重要な連絡は、授業時間中に適宜行います。オフィスアワーは毎週金曜日のお昼休みとします。

01	オリエンテーション：講義概要の説明
02	女性とライフコース：仕事と結婚（１）教科書の第１部の事例検討
03	女性とライフコース：仕事と結婚（２）グループディスカッション
04	第１回　理解度評価および解説
05	女性とライフコース：出産（１）教科書第３部の事例検討
06	女性とライフコース：出産（２）グループディスカッション
07	第２回　理解度評価および解説
08	女性とライフコース：子育て（１）教科書第２部の事例検討
09	女性とライフコース：子育て（２）グループディスカッション
10	第３回　理解度評価および解説
11	性別・性差・性役割（１）――　ジェンダー理解
12	性別・性差・性役割（２）――　性と暴力
13	映像資料にみる現代社会と女性（１）性差と役割規範の考察
14	映像資料にみる現代社会と女性２）グループディスカッション
15	第４回　理解度評価および解説
16	なし

2019年度シラバス

科目名:女性とジェンダー	担当者:石月　静恵,未定	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この授業では、ジェンダーと女性・子どもについて学びます。映像資料も使いながら、基本的にはテキストに基づいて日本の近現代の出来事とその中での女性・子どもの生き方の変化を理解できるようにします。講義を中心にしますが、グループ学習や個人のレポート作成なども求めます。

授業の到達目標
ジェンダーについての基本的理解を深め、ジェンダーに敏感な視点が形成できるようになることを目標にします。また、子ども自身の表現や子どもを対象とした研究が深化してきたことを学びます。20世紀になり、子どもへの見方＝まなざしが変化し、子ども自身が表現できるようになったこと、具体的には、高度経済成長や国際児童年、東日本大震災の影響を理解することを目指します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
テキストを指定しますので、事前学修をしておいてください。授業では、テキストで扱う時代についてトータルに講義します。授業後、図書・事典・インターネットなど各自工夫して復習してください。

評価方法
評価は、テストによる理解度評価を70%、テキストに基づくワークシートを含め、受講態度を30%で行います。

教科書	参考図書
石月静恵著『子どもへのまなざし一子ども研究の歴史』文芸社　2019年	適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段については授業時間にお知らせします。オフィスアワーは授業日の昼休みとします。

01	オリエンテーション：ジェンダーと女性・子ども
02	児童の世紀と子ども研究
03	児童文学の成立　グループ研究の方法　『赤い鳥』を読む
04	『赤い鳥』を調査して　小レポート①
05	『赤い鳥』「綴方」における子どもの表現
06	高度経済成長と女性労働者の増加
07	高度経済成長と保育問題 高度経済成長と保育問題
08	保育園と幼稚園　小レポート②
09	国際婦人年と女性差別撤廃条約
10	日本における女性の地位と国際基準
11	国際児童年とユニセフの活動
12	東日本大震災と女性・子ども（１）
13	東日本大震災と女性・子ども（２）
14	災害と女性・子どもの問題　小レポート③
15	まとめ
16	テスト

2019年度シラバス

科目名:生涯学習	担当者:井川　和道	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	その他

授業概要と方法 近代社会への変化にともない学校教育システムが生み出されました。その後も社会は変貌し、教育も多様となり、さまざまな意味を持つようになっています。生涯学習はこうしたコンテキストの中でそのスタイルやテーマを変化させてきました。現代社会のトレンドと生涯学習の意義について具体的事例をもとに考察します。
授業の到達目標 学校教育と生涯教育の違いを認識し、現代社会に生きる女性として学び、つながり合うチャンネルとしての生涯学習について、社会のトレンドとその変化を関連させて、自らのライフコースについて考えをまとめることができる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 教科書は特に指定しませんが、講義に配布した資料の内容を事後に改めて確認し、次の講義に考えをつなげてください。
評価方法 テストによる理解評価６０％、講義のコメント評価４０％

教科書 特に指定しません	参考図書 適宜紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 受講生の人数によって、参加型授業の形態を変えて行いますので、積極的な姿勢を期待しています

01	教育の歴史と学校教育・生涯教育
02	学校教育を振り返る
03	ライフコースからみた生涯学習
04	男女共同参画と生涯学習
05	家庭教育と生涯学習
06	児童虐待と子どもの貧困
07	家族支援・母親支援
08	学校教育支援と不登校支援
09	公民館・生涯学習センターの活動
10	博物館・美術館の活動
11	図書館ー読書活動と学力
12	テーマ教育ー人権教育
13	テーマ教育ー環境教育
14	テーマ教育ー障がい者支援
15	私の描く生涯学習
16	テスト

2019年度シラバス

科目名:芸術の世界	担当者:石山　英明,基村　昌代,田端　智美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】高等学校教諭
この授業科目では、元高等学校教諭での経験を踏まえ、美術の鑑賞分野において中・高校時を通した継続的な学びを行う。また、芸術史（特に美術史）の学修を通して文化を理解し、教養を身につけることができるようにする。

本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目である。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものである。本授業では、音楽・美術等、芸術に関して多角的に幅広く講義し「芸術とはなにか」を追求する。芸術の細かな知識を身につけるのではなく、世界共通の文化として概略的に理解・経験することを目標とし学修する。音楽作品と美術作品を様々な形式で鑑賞し、講義と併せて授業を展開する。

授業の到達目標
①芸術とは何かを理解できるようにする。②芸術を鑑賞する力や方法を身につける。③芸術を実際に体感・鑑賞し、芸術に対する理解を深める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・美術館・音楽会等に参加して芸術鑑賞を自らすすんで行うこと。

評価方法
・レポート評価(50%)、毎回の授業の終わりのリフレクション等（省察・振り返り：ミニッツペーパー等を記述）への対応（30%）、授業への参加態度(20%)を対象として総合評価を行います。

教科書	参考図書
適宜プリントを配布します。	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「芸術」は幅の広い概念です。普段から「芸術」に興味を持って、自らの幅を広げましょう。連絡はisiyama@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

01	ガイダンス・オリエンテーション　（石山・基村・田端）
02	総合芸術について　（基村）
03	ミュージカル「サウンドオブミュージック」が伝える様々な「愛」　（基村）
04	オペラ「カルメン」からみる女性像　（基村）
05	バレエ「白鳥の湖」の哀愁漂う幻想の世界　（基村）
06	モナリザはだれ？　レオナルド・ダビンチを中心に　（田端）
07	ピカソは本当に上手なの？　ピカソを中心に　（田端）
08	絵と会話してみよう！子どもの美術鑑賞を中心に　（田端）
09	音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう①（バロック・古典派編）　（石山）
10	音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう②（ロマン派・近現代編）　（石山）
11	芸術に関する映画鑑賞　（石山）
12	音楽会に行ってみよう（ゲスト講師による演奏会）　（石山）
13	美術館に行ってみよう　（田端）
14	美術館に行ってみよう　（田端）
15	まとめ・レポート提出　（石山・基村・田端）
16	なし

2019年度シラバス

科目名:文学の世界	担当者:太田　昌孝	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本講義は桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目である。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものである。本講義では､前述の内容を踏まえ、主に宮沢賢治の作品分析及びその考え方、視点、生き様などを学ぶことにより、言語芸術の持つ特性について学修し、人間性を涵養する。

授業の到達目標
①　文学の基礎知識を習得する。②　小説や詩という文芸を学ぶことにより、言語感覚を錬磨し、作品鑑賞の力を習得する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①　言語表現一般に興味関心を抱き、努めてその鑑賞及び読解を試みる。②　実際に創作する機会を持つように努める。

評価方法
　講義に取り組む姿勢、（10）ミニレポート・創作（不定期/20）、定期試験（レポート/70）によって評価する。『宮沢賢治全集』筑摩書房

教科書	参考図書
プリントを用意します。	『宮沢賢治全集』筑摩書房

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
系統的な講義なので欠席をしないように。連絡方法については講義で指示する。

01	講義概説（講義の目標とその概説）
02	宮沢賢治入門1（宮沢賢治の生涯）
03	宮沢賢治入門2（宮沢賢治と岩手）
04	作品鑑賞1（宮沢賢治の詩1）「雨ニモ負ケズ」
05	作品鑑賞2（宮沢賢治の詩2）「稲作挿話」
06	作品鑑賞3（宮沢賢治の詩3）「冬のスケッチ」
07	作品鑑賞4（宮沢賢治の詩4）「春と修羅」（序）
08	作品鑑賞5（宮沢賢治の詩5）「永訣の朝」
09	作品鑑賞6（宮沢賢治の詩6）「青森挽歌1」
10	作品鑑賞７（宮沢賢治の詩7）「青森挽歌2」
11	作品鑑賞8（宮沢賢治の童話1）「どんぐりと山猫」
12	作品鑑賞9（宮沢賢治の童話2）「虔十公園林」
13	作品鑑賞10（宮沢賢治の童話3）「ざしき童子の話」
14	作品鑑賞11（宮沢賢治の童話4）「セロ弾きのゴーシュ」①
15	作品鑑賞12（宮沢賢治の童話5）「セロ弾きのゴーシュ」②
16	なし

2019年度シラバス

科目名:心の探求	担当者:布施　佐代子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目です。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものです。人間としての心の豊かさの重要性が注目されてきている今日、本授業では、人間の心のしくみについて研究する心理学の基本的な考え方を学びながら心とはなにかを考え、「心を持つ人間」としての他者と自分をみつめる力を養い、心豊かな人間になる道を探ります。

授業の到達目標
１．心理学の基礎知識を習得することを通して、人間と人間の心についての理解を深める。。２．心理学の理論と自分の身近な問題とを結びつけて考えられるようになる。３．「心を持つ人間」として他者と自分をみつめ大切にする力を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
人間として生きていく上では、さまざまな人と関わる機会があり、いろいろな感情を抱いたり、自分の気持ちに向き合ったりすることも出てきます。「心を持つ人間」としての他者と自分の姿を日常のいろいろな場面で感じ、なぜそう思うのか考えてみるようにしましょう。授業の準備学修として、学ぶ範囲の事柄に関する日常的な観察と考察、事後学修としては、授業で学んだことをポイントを中心に振り返り、徹底理解に努めてください。

評価方法
定期試験　７0%、課題レポート等の提出物　20%、授業への参加態度　１0%で、総合的に評価します。

教科書	参考図書
使用しません。毎回資料を配布します。	授業時に適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分を含め人間そのものへの関心を常にいろいろな場面で持つように努めて、人間の心の不思議さ・おもしろさを感じられるよう願っています。オフィスアワーは月曜・金曜のお昼休みです。連絡先は授業でお伝えします。

01	心の世界への招待　―　科学としての心理学が誕生するまでの歴史をたどる　―
02	知覚　―　私たちは周りの世界をどのようにして知るのか　―
03	記憶　―　物事を覚えたり忘れたりするしくみ　―
04	学習　―　「学ぶ」とはどういうことか、学びのしくみ　―
05	思考と言語　―　考えるしくみと言葉を使うしくみ　―
06	知能と創造性（１）　　知能と創造性との違いは何か、知能と学力と創造性の関係
07	知能と創造性（２）　　子どもの教育・保育とのかかわりで考える
08	脳と心　―　脳科学と心理学はどうつながるのか　―
09	感情・動機づけ（１）　　人間の喜怒哀楽と「やる気」のしくみ
10	感情・動機づけ（２）　　子どもの教育・保育とのかかわりで考える
11	社会的認知　―　他者を知ることのしくみ、個人の心理と集団心理　―
12	性格・パーソナリティー　―　心の個人差と適応のしくみを知る　―
13	発達（１）　人間としての発達過程とそのしくみ　―　胎児期から老年期まで　―
14	発達（２）　人間としての発達に影響を与えるものを考える
15	心の不調とメンタルヘルス　―　ストレスの多い現代社会と人間の心　―
16	定期試験

2019年度シラバス

科目名:生き方の探求	担当者:井上　文人	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択必須

授業概要と方法
本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目です。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するものです。本授業は、〈世界の在り方〉とその中での〈人間の生き方〉を考察する学問である「哲学」に基づいて、「信念ある女性を育成する」ために、人間が生きる日常の中の様々な生き方の諸問題の能動的学修を通じて、〈自己の生き方を探求する〉ことを本授業の概要と方法とします。

授業の到達目標
①〈人間と人間の心〉の本質的な理解を獲得します。②〈人間の生き方〉の諸問題を体系的に理解します。③〈自己の生き方〉についての根本的な考察能力を能動的に修得します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：本授業で扱われる〈人間の生き方の諸問題と課題〉の継続的で日常的な準備学修：２時間。事後学修：本授業で扱われる〈人間の生き方の諸問題と課題〉の継続的で日常的な事後学習：２時間。

評価方法
成績評価は、①授業への参加態度30％と②期末レポート70％の配分にもとづいて行います。

教科書	参考図書
教科書はありません。毎回資料を配布します。	授業中に指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
〈人間の生き方の諸問題と課題〉は継続的で日常的な考察が重要です。生き方を自覚化しましょう。連絡先は授業で開示します。

01	授業ガイダンス
02	自己分析アンケート
03	「シンデレラ・コンプレックス」と女性の生き方
04	現代を生きる女性達の生き方の問題
05	「ピーターパン・シンドローム」と男性の生き方
06	現代を生きる男性達の生き方の問題
07	現代を生きる人間の生き方の課題と哲学
08	『君たちはどう生きるか』
09	「コペル君」と「世界観」
10	『ぼくを探しに』
11	『ビックオーとの出会い』
12	「自分探し」とは何か？
13	『〈未来〉は〈いま〉にある』他
14	『私の〈仮面〉』他
15	『〈自分創り〉は〈他者創り〉』他・まとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:生活と経済	担当者:森田　優己	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:なし		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本講義「生活と経済」は、桜花学の中の「社会を知る」科目群に位置付けられている。社会の土台を形成する経済に関する知見を得ることは、社会に寄与することができる「信念ある女性」となるための必須教養の一つである。授業は基本的に講義形式で行うが、映像をみたり新聞記事などを使ってワークを行う。授業後には、毎回、授業の理解度を確認するため質問シートに記入してもらい、翌週にリフレクションを行う。

授業の到達目標
自分たちの生活が経済活動と密接に結びついていることを理解することができるようになる。また、経済のしくみを知ることをとおして、自分の日常生活でのひとつひとつの行動が社会のあり方を決定しているのだという自覚をもつとともに、社会のあり方について問題提起できるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日常的に、経済・社会関連のニュースに関心を払ってほしい。新聞やネットでニュースを読むこと、および、授業での報告準備、復讐のための事後学修として、４時間程度の学修時間が必要である。

評価方法
授業へのとりくみ状況20%、ワーク30%、定期試験50%

教科書	参考図書
使用せず	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業時間外での質問は、オフィスアワーに研究室で受け付ける。この時間以外については、メールでアポイントをとること。オフィスアワーの時間とメールアドレスは、授業時間内に開示する。

01	オリエンテーション
02	経済活動って何だろう？
03	お金とは①　その役割
04	お金とは②　調べてみよう。キャッシュレス化、支払いアプリの現状（ワーク１）
05	仮想通貨とブロックチェーン
06	モノやサービスの値段はどのように決まるのか　　穫れずぎのキャベツはどうする？
07	「ただに見えるもの」　　テレビドラマ『逃げ恥』が問題提起したもの　（ワーク２）
08	「ただに見えるもの」　アンペイドワーク、その他
09	モノやサービスの売り手・買い手としての私たち
10	日本の人口減少と労働市場の変化
11	労働力不足の現状とその対応策　　関連ニュースからまとめてみよう　（ワーク３） to AIto AIと私たちの仕事①　概要をつかむ
12	AIと私たちの仕事①　映像使用　（ワーク４）
13	AIと私たちの仕事②　第４次産業革命と技術的失業、変わる社会
14	経済活動と私たちの暮らし
15	全体のまとめ
16	定期試験

科目名:地域社会	担当者:嶋守　さやか	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は「社会を知る」の科目です。授業ではまず、社会学の学問的なイメージをつかんでもらい、人々が生まれ、育ち、学び、働き、自らの子ども達を育て、自己を実現していくというプロセスと、人々が出会う人間関係と地域の問題を社会学的に考察します。また、「地域社会で生きていくための課題」をグループワーク等により実践的に学びます。

授業の到達目標
　授業では、社会学理論の「読み方」を学び、その「読み方」をふまえた上で、現代社会の成り立ちや社会問題が問題化されるプロセスを知ること。また、自分自身が生きる地域社会についての理解を深めること。そして、社会全体における問題の構造を見通せる力を育成・獲得することを学修の到達目標とします。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　単元ごとに配布するワークシートの解答を準備学修とします。その上で授業に参加し、各学生がワークシートに記述した内容の確認、事後課題への解答を事後学修として行います。授業期間中に３回、理解度評価を行いますが、各理解度評価の前週にその内容についての解説を行います。

評価方法
評価は、理解度評価60%、グループワークの相互評価30%、ミニコメントシート（毎授業後のまとめ）10%にて行います。

教科書	参考図書
嶋守さやか『孤独死の看取り』新評論、2015年	適宜指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この科目に関わる基礎的な知識を有すること。授業内容に関する重要な連絡は、授業時間中に適宜行います。オフィスアワーは毎週金曜日のお昼休みとします。

01	授業オリエンテーション（授業目的、授業の進め方等についての説明）
02	E. デュルケームの社会学
03	グループワーク演習から理解するE. デュルケームの社会学理論
04	グループディスカッションおよびプレゼンテーション①
05	第１回　理解度評価および解説
06	M. ウェーバーの社会学
07	社会福祉体験演習から理解するM. ウェーバー理論（前編）
08	グループディスカッションおよびプレゼンテーション②
09	社会福祉体験演習から理解するM. ウェーバー理論（後編）
10	グループディスカッションおよびプレゼンテーション③
11	第２回　理解度評価および解説
12	映像資料から考える地域社会の課題（前編）
13	映像資料から考える地域社会の課題（後編）
14	グループディスカッションおよびプレゼンテーション④
15	第３回　理解度評価および解説
16	なし

2019年度シラバス

科目名:人間と歴史	担当者:小久保 嘉紀	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
「昔話などから見る日本史」
　神話・昔話・童謡・絵本・詩・現代メディアなどに反映される歴史的背景を読み取り、日本史の各時代がどのようなものであったのかについて考察する。それを踏まえ、各時代の子供の位置付けや、海外文化の導入の歴史についても考える。

授業の到達目標
　昔話などの媒体を通して、歴史的背景を読み取る力を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　準備学修：授業計画で挙げた昔話の内容を把握しておくこと。
　事後学修：授業で挙げた参考文献を読んでみるとよいでしょう。

評価方法
　筆記試験50%＋平常点（授業のまとめ）50%

教科書
　使用しない。

参考図書
　・稲田浩二・稲田和子編『日本昔話ハンドブック』（三省堂、2001年）
　・小澤　俊夫『昔話のコスモロジー―ひとと動物との婚姻譚―』（講談社学術文庫、1994年）
　・古川のり子『昔ばなし―あの世とこの世を結ぶ物語―』（山川出版社、2013年）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業中の私語・スマホ・音楽などは、平常点から減点になります。また、座席指定の授業です。

01	オリエンテーション
02	古代社会と日本神話
03	縄文～古墳時代―「桃太郎」と大和朝廷―
04	飛鳥・奈良時代―「浦島太郎」と社会不安―
05	平安時代―「かぐや姫」と貴族社会―
06	鎌倉時代―「金太郎」と武士社会―
07	南北朝・室町時代―「一寸法師」と応仁の乱―
08	戦国時代―「猿カニ合戦」と報復―
09	江戸時代①―動物話と江戸社会―
10	江戸時代②―妖怪話と江戸社会―
11	明治・大正時代―童謡と近代日本―
12	クリスマスの歴史について
13	戦前・戦時中の社会―絵本と軍国主義―
14	戦後の社会―詩と戦後復興―
15	現代社会とメディア
16	定期試験

科目名:異文化理解	担当者:加藤　あや美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　この科目は桜花学「世界を知る」科目群に位置付けられている科目です。グローバル社会への理解を深めるという目標をもとに、異文化という観点からコミュニケーションの具体的な事例を取り上げ、異なる文化背景を持った人にどのように伝え、交わるか、また、どのように受け入れ、理解するのかについて考えていく。さらに、多文化共生社会に中で、いかに円滑に共存できるかについて考察する。

授業の到達目標
　異文化理解や異文化コミュニケーションの諸相に関連する文献を読み、それぞれにおける問題点を文化、言語の関連の枠組みでとらえ、考察を加えることを目指す。実際に異文化と接触した際に、学んだ知識をもとに適切に行動する力を身につける。また、異なる文化背景の人々を受け入れることができる素地を養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日頃から新聞などに目を通し、国際的に問題となっている事柄に関心を持つようにしましょう。また、日常的に様々な人とのコミュニケーションも大切にし、人との関わりに高い意識を持つようにして下さい。さらに、授業内で紹介する異文化コミュニケーションの事例をもとに、自分の周りにある身近な事例をピックアップできるようにしておきましょう。Active Learning型の授業を実践するため、グループワークやディスカッションを取り入れていきます。

評価方法
グループワーク・ディスカッション等を含めた授業への参加度　20%　授業レポート　20%　小テスト・小レポート　20%　期末レポート　40%

教科書	参考図書
適宜、プリントを配布します。	授業中に紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ディスカッションを多く取り入れていくため、積極的な授業への参加を望みます。発表や授業レポートにおいて、自分の考えを明確に述べることができるよう努力しましょう。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	オリエンテーション
02	異文化コミュニケーション①　文化とは何か
03	異文化コミュニケーション②　自文化への気づき
04	異文化コミュニケーション③　様々な異文化接触
05	異文化理解①　言語と文化の密接な関係
06	異文化理解②　高文脈文化と低文脈文化
07	異文化理解③　社会と言語のつながり
08	異文化理解④　世界における言語使用の現状
09	多文化共生①　非言語コミュニケーション
10	多文化共生②　コードスイッチングとバイリンガリズム
11	多文化共生③　多文化社会について考えよう
12	多文化共生④　多文化共生のためにできること
13	まとめ①　大学生の学びとコミュニケーション（1）
14	まとめ②　大学生の学びとコミュニケーション（2）
15	まとめ③　大学生の学びとコミュニケーション（3）
16	なし

2019年度シラバス

科目名:日本の文化	担当者:Martin Baildon	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:パソコンを持参すること		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この講義では日本の文化について学びます。歴史や有名なお祭りなど現在の文化について学習していきます。この機会に一緒に日本の文化について知識を深めましょう。この科目は、桜花学の中の「世界を知る」の科目群に位置づけられている。

授業の到達目標
日本の歴史や現在の文化を知り、適切な表現で表すことができます。活発にディスカッションやプレゼンテーションに参加して自信を持って口頭で意見や知っていることを伝えてください。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業のプレゼンテーションのために事前学修が必要です。配られたプリントや参考教材を必ず読んでください。分からない歴史や人物があれば、百科事典やウイキペディアなどで調べてください。

評価方法
小テスト40% 、プレゼンテーション & 感想 40%、積極性 20%

教科書	参考図書
授業で指示します。	授業中に紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この講義では日本の文化について学習するチャンスです。一つの話題について深く知りたい場合や分からないことがあれば講師に直接に聞いてください。

01	講師自己紹介と講義内容の説明
02	日本人の由来　縄文時代から鎌倉時代時代まで
03	江戸時代から第二次世界大戦の終わりまで
04	日本の様々な民族（アイヌや琉球人など）
05	日本のお祭り
06	日本の演劇
07	現代の日本の文化（パチンコ、カラオケ、漫画など）
08	日本語の特徴
09	授業１－８の復習
10	歴史的に有名な日本人
11	有名な作家
12	日本における教育
13	日本のお正月の文化
14	授業10-13の復習
15	まとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:国際関係論	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は桜花学「世界を知る」科目群に位置付けられている科目です。日常生活で当たり前で正しい(と思われる)事でも、他の国、他の地域に行けば逆に悪い事(と思われること)があります。世界には様々な文化、様々な社会が存在します。全く相反する異なる価値観が存在したとしても私たちは共存していかなければ行けません。そうした国際社会の現状とルールがどうなっているか、を様々な事例から勉強します。毎週最新のニュースを扱いながら、様々な今までの事例を考え、幅広い視野を身につけるようにします。映像と事例を多数示し授業を進めます。様々な実例を見ながら考えながら、授業を進めます

授業の到達目標
様々な異なった価値観を学びます。その中から自分の考え方、そして広義の意味では自分の生き方を考える機会となるように世の中の動きと今を生きている私たちを取り巻く国際・国内の社会情勢を同時進行的に学び社会に出てから通用する知識を身につけることを目標とします。保育学部の授業として、日本と海外の保育のあり方の違い、その違いとなっている考え方の根本、についてもケーススタディとして扱います。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
常に社会に目を向け、日々のニュースを新聞・テレビ・インターネット等で見る習慣を身につけるだけでなく、そこから見えてくるもの、内包しているものを見つける姿勢が期待されます。

評価方法
授業毎の平常点レポート40%　　期末試験　40%　　年末課題　20%

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ノンフィクション分野の読書　時事を扱ったテレビ番組、などを通して自主的に学習することが望ましい。

01	授業概要　(以下の計画は国際状況に応じて講義の順序は変更の場合あり)
02	なぜ争い(戦争)が起きるのか？
03	国際社会におけるルール　～　価値観の違い
04	条約とは　・20世紀映像の時代①（20世紀初頭）
05	国際社会で求める共通性とは　・20世紀映像の時代②（第一次世界大戦）
06	クーデターとは
07	Protocol（プロトコール）
08	20世紀映像の時代③（第二次世界大戦）
09	国際援助の一例～日本の海外援助
10	国際社会における人的交流
11	国際機関はどのように機能しているのか
12	20世紀映像の時代④（ベトナム戦争　地域紛争）
13	最新国際時事分析①
14	国際社会と難民　民族の自立
15	20世紀映像の時代⑤（植民地の自立）
16	期末試験

2019年度シラバス

科目名:世界の宗教	担当者:斎　孝則	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　この授業は桜花学園大学のディプロマポリシーに謳う「幅広い教養」と「豊かな人間性」に直結する科目であり、桜花学「世界を知る」に位置づく。広く世界に目を向けるグローバル人材になることを目標として、世界の様々な宗教に関する基礎知識を身に付け、それを人に説明できる力を磨く。また何よりその知識をもとに豊かな人間性を養う。さらにグループ学習やグループ発表を何度も行う。担当教員は提出された課題に対して Moodle サイトを通してフィードバックする。

授業の到達目標
（１）一神教と多神教について理解し、説明できるようになる。
（２）神道の概要を理解し、短い言葉（日本語と英語）で説明できるようになる。
（３）仏教の概要を理解し、短い言葉（日本語と英語）で説明できるようになる。
（４）ユダヤ教・キリスト教の概要を理解し、短い言葉（日本語と英語）で説明できるようになる。
（５）イスラム教・ヒンズー教の概要を理解し、短い言葉（日本語と英語）で説明できるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業で習ったことをヒントとして、授業外では世界の宗教についてさらに研究を深めます。準備学修としてはテキストの資料に目を通しておいて下さい。また、宗教については知れば知るほど様々な疑問が浮かんでくると思います。それを書き留めておくだけでも大変有益です。事後学修としては、習ったことと授業中に感じたこととをまとめる作業が有効だと思います。教員からも課題を出しますが、自ら学ぶ姿勢が臨まれます。２単位の科目なので１回の授業に対して４時間程度の予習、復習をして下さい。

評価方法
小テスト４０％（筆記部分があるのでPC受験が望ましい）
提出物４０％（PCの場合と手書きの場合があると思います）
ポートフォリオ２０％（PowerPointで作成します）

教科書	参考図書
自作テキストを使用する予定です。	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問などは随時受け付けます。オフィスアワー等を活用して頂ければ幸いです。

01	授業ガイダンス。一神教と多神教
02	神道：カミさまはどのくらいの数、おられるのか
03	神道：伊勢神宮には何のカミさまが祀られているのか
04	神道：人は死ぬとどこへ行くのか
05	仏教：縁日とはなにか
06	仏教：如来とか菩薩とはなにか
07	仏教：どんな教えがあるのか
08	まとめ（１）
09	ユダヤ教：神様はどのくらいの数、おられるのか
10	キリスト教：神様はいるのか。キリストはいたのか
11	キリスト教：カトリックとかプロテスタントとはなにか
12	キリスト教：クリスマスと関係あるのか
13	イスラム教：どんな教えがあるのか
14	ヒンズー教：どんな宗教なのか
15	まとめ（２）
16	なし

2019年度シラバス

科目名:スポーツ健康論	担当者:寺田　恭子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業では、生涯に渡って心身共に健康な生活を送れるよう、必要な知識と行動習慣を身に付ける。さらに社会のあらゆる角度から、より良く生きるために再考すべき課題を健康とスポーツというキーワードから発見・探求していく。

授業の到達目標
現代社会をより健康に生きるためには、健康に関する知識や運動・スポーツへの実践力を身に付けることはもちろんであるが、社会全体に対する意識を高め社会の在り方を考察し、課題を発見・解決する力も必要である。本授業では、個々および社会における課題を健康とスポーツというキーワードを通して発見する。また人々がより人間らしく豊かに生きるために必要な生活行動習慣および考え方について探ることができ、学生自身がその具体的方法を身に付けることを目的とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃からスポーツや健康に関する情報について関心をもち、新聞やニュースをよく読んだり聞いたりすること。

評価方法
受講態度・提出課題(毎回&特別レポート)評価:40%筆記試験結果:60%以上を総合して評価する。

教科書 特になし。その都度プリントを配布する。	参考図書 各教員がその都度連絡する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講義内では、みなさんの意見･体験などを発表することや、簡単な実技等を行う場合もある。積極的に参加すること。

01	オリエンテーション　健康とスポーツを学ぶにあたって
02	生活習慣(喫煙・飲酒)と健康
03	フィットネスと健康　疲労とストレス
04	ダイエットと肥満　より健康なカラダ作りを目指して
05	体力について
06	運動不足が身体に与える影響
07	女性の身体と健康①
08	女性の身体と健康②
09	女性の健康と病気・妊娠・出産・中絶
10	更年期障がいと骨粗しょう症
11	スポーツと身体
12	オリンピック・パラリンピックからスポーツという文化を考える
13	スポーツに関わる社会的な問題と課題
14	子どもとスポーツ
15	私のライフプラン～生涯に渡るスポーツを取り入れた健康的生活の在り方～
16	まとめ・確認試験

2019年度シラバス

科目名:スポーツ健康論	担当者:木村 達志	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 健康や運動に関して講義形式で進めていきます。生涯に渡って健康を維持するためには、運動と栄養と休養が大切です。その中でも特に運動を中心として、疾病予防やストレスの軽減、性差やライフステージとの関連について学習します。
授業の到達目標 生涯に渡って充実した生活を送ることが出来るようにするため、巷にあふれている健康に関する情報の取捨選択する能力を身につける。その中でも、特に運動の効果について理解するとともに、自分のからだや健康管理について生理学的な知識を身につける。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 準備学修としてシラバスの内容に関係する健康や運動の情報について予習しておくと良いです。事後学修として、Moodle上にある授業資料について授業中に触れることが出来なかった箇所に目を通して下さい。
評価方法 授業への取り組み：40%、提出物（ミニレポート）：20%、期末試験40%

教科書	参考図書 必要に応じて案内します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) Moodleを利用しますので、ノートパソコンがあると資料の閲覧や入力作業が容易です。連絡手段は授業時に案内します

01	授業概要およびMoodleの利用方法について
02	生活習慣(喫煙・飲酒)と健康、アルコールパッチテスト
03	体力・運動の種類、トレーニングについて
04	疲労・ストレスの概要
05	疲労・ストレスの回復方法
06	運動不足による健康への影響
07	肥満の成り立ち
08	肥満の改善
09	メタボリックシンドロームとは
10	生活習慣病、フレールと運動
11	女性とスポーツ（月経・妊娠・出産）
12	女性とスポーツ(更年期・骨粗鬆症)
13	環境と運動・スポーツ(暑熱環境・日焼け)
14	運動・スポーツを実践するための環境整備
15	ライフステージ別の運動
16	まとめ・試験

2019年度シラバス

科目名:コンピュータＩ	担当者:鐘ヶ江　みづほ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:毎回充電済みＰＣを持参すること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　コンピュータＩではパソコンの基本操作を学ぶ。Windows操作、メールの送受信、文書作成（Word）、表計算（Excel）、プレゼンテーション（PowerPoint）の基本操作を演習形式で学習する。授業で使用するパソコンは、毎回各自が準備し持参する。持ってこない場合は受講できない（メーカー修理の場合を除く）。

授業の到達目標
　学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標とし、本講においては、パソコンの基本操作を習得することを目標とする。現在最も普及しているソフトの一つであるWord、PowerPointとExcelの基礎の習得を目指し、今後の学生生活においてコンピュータを活用できることはもちろん、保育の現場で使いこなしていけるための基礎を身につけることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　情報検索、レポートの作成などを通じて、日常的に使ってなれることが、パソコンの使い方をマスターするための近道であるので、授業で学んだ技術は、様々な科目の学習活動等において、積極的に活用すること。また、この時期に日常的にタイピング練習を行っておくこと。moodleやメールにて指示があるので確認する。

評価方法
受講態度（４０％）、毎回の提出課題（３０％）、各評価課題（３０％）

教科書	参考図書
日本語ワープロ検定　２・準２級　模擬問題集　表計算検定　２・準２級編　模擬問題集 文書デザイン検定　２級編　模擬問題集　ＦＯＭ出版　情報モラル&情報セキュリティ	適宜授業内で紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
【初回授業前に準備しておくこと】各自パソコンをセットアップし、使用できる状態にしておくこと。準備していない場合、受講できない。
　初回授業では各自のパソコンを使用し、開始直ぐにクラス分けテストを実施するので、必ず準備したパソコンを持参すること。次回授業から習熟度別のクラス分けを行い、経験に合わせて指導を行う。毎回、充電済みのパソコンを持参すること。状況により授業計画の回数・内容が変更になる場合がある。

01	ガイダンス１（大学無線LANへの接続、クラス分けテスト、office365インストール、Gmail登録）
02	ガイダンス２（習熟度別クラス分け後moodleコース登録、プリンタの設定、授業で必要なアプリのインストール
03	WORD基本１（基本的なビジネス文書）インターネット　ブラウザの基本操作と情報モラル
04	Word基本２（表を含んだビジネス文書）
05	Word基本３（図や図形を含んだビジネス文書）
06	Word課題作成１
07	Word課題作成２
08	PowerPoint基本１（基本操作）
09	PowerPoint基本２（アニメーション）
10	PowerPoint課題作成
11	PowerPoint課題発表
12	Excel基本１（四則演算集計）
13	Excel基本２（オートサムボタン）
14	Excel基本３（グラフの基本操作）
15	Excel課題、まとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:コンピュータⅠ	担当者:鬼頭 恭子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:毎回充電済みPCを持参すること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　コンピュータⅠでは、コンピュータの基本操作を学ぶ。コンピュータの基礎知識や情報モラルなどの知識の習得と、文書作成（Word）、表計算（Excel）、デジタルプレゼンテーション（PowerPoint)の基本操作を演習形式で学習する。

授業の到達目標
　学生生活および将来にわたってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標とし、本講においては、その基本操作を習得することを目標とする。現在もっとも普及しているMicrosoft Officeの 製品であるWord、Excel、PowerPoint の基礎の習得をめざし、今後の学生生活においてコンピュータを活用できることはもちろん、保育の現場で使いこなしていけるための基礎を身につけることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
情報検索、レポートの作成などを通じて、日常的に使ってなれることが、コンピュータの使い方をマスターするための近道であるので、授業で学んだ技術は、様々な科目の学習活動等において、積極的に活用すること。授業内にわからないことは授業内で解決するよう心がけ、授業外では、復習課題を繰り返し練習すること。

評価方法
毎回の提出課題（５０％）、各単元評価課題(WORD,EXCEL,POWERPOINT,メール,タイピング）（５０％）

教科書	参考図書
日本語ワープロ検定２・準2級模擬問題集、表計算検定２・準2級模擬問題集、情報モラル&セキュリティ改訂2版	適宜授業内で紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常的にタイピング練習を行っておくこと。moodleやメールにて指示があるので常時確認する。連絡手段のメールアドレスについては、授業内に開示する。

01	オリエンテーション（コンピュータの仕様の確認、タイピング）
02	コンピュータの基礎　コンピュータの基本構成とIT活用のルール
03	インターネット　ブラウザの基本操作と情報モラル
04	Word基本１（基本的なビジネス文書）
05	Word基本２（表を含んだビジネス文書）
06	Word基本３（図や図形を含んだビジネス文書）
07	Word評価課題
08	PowerPoint基本１（基本操作）
09	PowerPoint基本２（アニメーション）
10	PowerPoint課題作成
11	PowerPoint評価課題発表
12	Excel基本１（Excelのルールと四則演算）
13	Excel基本２（オートサムボタン）
14	Excel基本３（グラフの基本操作）
15	Excel評価課題、まとめ
16	なし

2019年度シラバス

科目名:コンピュータⅠ	担当者:佐久間　潔	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
1.授業内容　　コンピュータⅠではパソコンの基本操作を学ぶ。WindowsまたはMAC OS X操作、メールの送受信、文書作成（Word）、表計算（Excel）、プレゼンテーション（PowerPoint）の基本操作を演習形式で学習する。

授業の到達目標
　学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標とし、本講においては、パソコンの基本操作を習得することを目標とする。現在最も普及しているソフトの一つであるWord、PowerPointとExcelの基礎の習得を目指し、今後の学生生活においてコンピュータを活用できることはもちろん、社会の現場で使いこなしていけるための基礎を身につけることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　情報検索、レポートの作成などを通じて、日常的に使ってなれることが、パソコンの使い方をマスターするための近道であるので、授業で学んだ技術は、様々な科目の学習活動等において、積極的に活用すること。
また、この時期に日常的にタイピング練習を行っておくこと。moodleやメールにて指示があるので確認する。
毎回の授業でわからないことはその日に解決する。Ohka Moodleを利用して予習・復習に努める。
情報モラルは使う側の「モラルを守る姿勢」が重要です。特にネットの活用にはその自覚が必要です。

評価方法
受講態度・平常点（４０％）、Office製品（Word,Excel,PowerPoint）等の各課題・試験の評価（３０％）、その他の課題（３０％）

教科書	参考図書
日本語ワープロ検定　２・準２級　模擬問題集 ＦＯＭ出版　情報モラル&情報セキュリティ＜改訂版＞	学芸学部：ひと目でわかるOffice2016 for Mac　日経BP社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡用メールアドレス：sakuma@nagoyacollege.ac.jp　毎回、動画教材の確認と充電を完了させて持参する。
保育学部：初回に、クラス分けテストを行い、経験に合わせて指導を行う。

01	オリエンテーション　　（パソコン仕様確認、ブラインドタッチタイピング）
02	パソコンの基礎　パソコンの基本構成と基本操作　　（Mac Book Air）
03	インターネット　ブラウザの基本操作（サファリとグーグルクロム）
04	WORD基本１（WORDの基本操作）
05	WORD基本2（ビジネス文章の基本）
06	WORD基本3（図・表・図形のあるビジネス文章）
07	WORD課題作成
08	Power Point基本１（Power Pointの基本操作）
09	Power Point基本2（アニメーション）
10	Power Point課題の作成
11	Power Point課題の発表
12	表作成 基本１（基本構成と四則演算、集計）
13	表作成 基本2（Σ（オートサム）ボタン）
14	表作成 基本3（関数とグラフ作成の基礎）
15	表作成（まとめ）
16	なし

2019年度シラバス

科目名:コンピュータⅡ	担当者:鐘ヶ江　みづほ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:毎回充電済みＰＣを持参すること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　コンピュータⅠを受けてWord,Excel,PowerPointの基本操作から活用を目指す。具体的には、園便りの作成など実習を通して文書作成技術やプレゼンテーション技術を身につける。Excelでは、レポートや論文作成時に必要となる表を活用する力を身につける。

授業の到達目標
　学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標とし、本講においては、パソコンの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目標とする。コンピュータⅠをうけて、
Word,Excel,PowerPointの基礎の定着を目指すとともに、応用技術も身につける。今後の学生生活、また、将来保育の現場で使いこなしていけるための基礎を身につけることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。デジタルプレゼンテーションにおいては、色の配置や表現方法などに、表計算においては、データの流れに着目してみると良い。その都度moodleやメールにて指示するので確認を怠らないこと。タイピング練習は、日常的に行っておく。

評価方法
受講態度（４０％）、毎回の提出課題（３０％）、各評価課題（３０％）

教科書	参考図書
前期使用のもの、適宜資料配布	適宜授業内で紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　毎回、充電済みのパソコンを持参すること。状況により授業計画の回数・内容が変更になる場合がある。

01	オリエンテーション　（WORDビジネス文書復習）
02	Word応用課題１（ビジネス文書応用）
03	Word応用課題２（デザイン文書・チラシ作成）
04	Word応用課題３（デザイン文書・おたより作成）
05	Word応用課題４（デザイン文書・おたより作成）
06	Excel応用課題１（関数１、グラフ１）
07	Excel応用課題２（関数２、グラフ２）
08	Excel応用課題３（関数３、グラフ３）
09	Excel応用課題４（データベース機能などの便利な機能の活用）
10	総合課題（ExcelとWordとの連携）
11	PowerPoint応用課題１（テーマ決定、骨格作成）
12	PowerPoint応用課題２（詳細部作成）
13	PowerPoint応用課題３（発表準備）
14	PowerPoint応用課題４（発表）
15	PowerPoint応用課題５（発表）
16	なし

2019年度シラバス

科目名:コンピュータⅡ	担当者:鬼頭 恭子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:毎回充電済みPCを持参すること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
コンピュータⅠを受けてWord,Excel,PowerPointの基本操作から活用をめざす。具体的には、園便りの作成など演習を通して文書作成技術やプレゼンテーション技術を身につける。Excelでは、レポートや論文作成時に必要となる表を活用する力を身につける。

授業の到達目標
学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標とし、本講においては、コンピュータの基本操作を習得しさらに応用できる力を身につけることを目標とする。コンピュータⅠをうけて、
Word,Excel,PowerPointの基礎の定着をめざすとともに、応用技術も身につける。今後の学生生活、また、将来保育の現場で使いこなしていけるための基礎を身につけることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。デジタルプレゼンテーションにおいては、色の配置や表現方法などに、表計算においては、データの流れに着目してみると良い。　授業内にわからないことはその都度授業中に解決することを心がけ、授業後に復習課題を繰り返し練習する。

評価方法
毎回の提出課題（５０％）、評価課題（３０％）、発表課題（１０％）、チャレンジ課題（１０％）

教科書	参考図書
前期の教科書、追加の教科書についてはオリエンテーション時に指示する	都度授業内に紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
その都度moodleやメールにて指示するので確認を怠らないこと。タイピング練習は、日常的に行っておく。

01	オリエンテーション（WORDビジネス文書復習）
02	Word応用課題１（ビジネス文書応用）
03	Word応用課題２（デザイン文書・チラシ作成）
04	Word応用課題３（デザイン文書・おたより作成）
05	Word応用課題４（デザイン文書・おたより作成）
06	Excel応用課題１（関数１、グラフ１）
07	Excel応用課題２（関数２、グラフ２）
08	Excel応用課題３（関数３、グラフ３）
09	Excel応用課題４（データベース機能などの便利な機能の活用）
10	総合課題（ExcelとWordとの連携）
11	PowerPoint応用課題１（テーマ決定、骨格作成）
12	PowerPoint応用課題２（詳細部作成）
13	PowerPoint応用課題３（発表準備）
14	PowerPoint応用課題４（発表）
15	PowerPoint応用課題５（発表）
16	なし

2019年度シラバス

科目名:コンピュータⅡ	担当者:佐久間　潔	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:前期のコンピュータⅠを受講していることが望ましい		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法 1. 授業内容　コンピュータⅠを受けてセキュリティとPCの基本技能を進化させる。特にMicrosoft Office製品（Word,Excel,PowerPoint）2. 授業方法　WindowsPCまたはMAC Book Airを使用し、演習授業を通じてPCを活用するスキルを習得する3. 他の授業との関係　すべての授業科目でのレポート作成・レポート提出に活用できるようにする
授業の到達目標 　前期で学習したコンピュータⅠで身につけたスキルを踏まえてさらに利活用するスキルを高める。1. Microsoft Office製品（Word,Excel,PowerPoint）の応用操作ができる。オフィス製品を利用して総合的なビジネス文書や園だより等の効率的な作成や計算処理、プレゼン準備ができる。今後の学生生活、また、将来社会現場でPCを使いこなすためのスキルを身につけることを目標とする。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 日常生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。デジタルプレゼンテーションにおいては、色の配置や表現方法などに、表計算においては、データの流れに着目すると良い。 moodleやメールにて指示するので確認を怠らないこと。タイピング練習は、日常的に行い10分間に最低500文字が入力可能なスキルを身に着ける。
評価方法 受講態度・平常点（４０％）、Office製品（Word,Excel,PowerPoint）等の各課題・試験の評価（３０％）、その他の課題（３０％）

教科書	参考図書
前期使用のもの、適宜資料配布	学芸学部：ひと目でわかるOffice2016 for Mac　日経BP社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 連絡用メールアドレス：sakuma@nagoyacollege.ac.jp 毎回、動画教材の確認と充電を完了させて持参する。

01	オリエンテーション（前期の復習）
02	WORD応用１（WORDの応用操作）
03	WORD応用2（デザイン文章の作成）
04	WORD応用3（デザイン文章　ちらし・パンフレット）
05	WORD課題
06	表作成 応用１（関数１）
07	表作成 応用2（関数２）
08	表作成 応用3（関数３）
09	表作成 応用4（便利な応用機能）
10	表作成（グラフ作成の応用）
11	Office製品の連携（WORD・EXCEL・Power Point）
12	Power Point応用１（Power Pointの応用操作）
13	Power Point応用2（アニメーション）
14	Power Point課題の作成
15	総合課題または試験
16	

科目名:ボランティア（国内）	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実技
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
授業概要と方法
　NPO/NGO、企業、政府機関、私立機関、観光機関等でボランティア活動に参加することにより、学生たちが成長し、経験し、コミュニティ精神を養うことを目的とする。子ども達、障害を持つ人、貧しい人、病める人、環境やコミュニティ全体を助ける等が実践例として考えられる。その他の活動も可能であり、担当者とともに話し合って決定する。
１年次の後期から４年次まで実習可能であるが、４年次の１月までにボランティア活動は完了している必要がある。

授業の到達目標
本実習授業では、学生に、他者やコミュニティを助ける貴重な経験を与えることを目標とする。こうした活動を通して、卒業後も人生を通して様々な分野で活かすことのできるボランティア精神を養うことが期待される。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
活動実施条件
１　国内でのボランティア活動を４０時間以上実施すること。
a）一つの活動を４０時間行う場合、b）複数種類の活動を総合して４０時間とする場合がある。
２　２４か月以内に４０時間を達成すること。
準備
１　「ボランティア（国内）活動申込書」を担当者に提出する。本申込書において、日程、時間、各活動の目的、各活動の責任団体の情報を提示し、担当者に許可を求める。
２　「ボランティア活動届」を大学に提出する。
３　活動計画を立て、各活動に必要な準備を行い、事前打ち合わせ等に積極的に参加する。
４　準備期間中に実践した事柄を日誌として記録すること。
活動の実施　計画通りに実施し、活動内容が担当者に伝わるよう具体的に記録をとり、日誌として残すこと。
活動後の担当者への提出物
１　準備及び活動中の日誌
２　全ボランティア活動の総合的なポートフォリオ
３　各ボランティア及び活動全体のリフレクション

評価方法
評価方法 本授業は下記の事項の提出および達成することで「認定」される。
１　「申込書」提出（計画立案）、準備活動、「ボランティア活動届」の大学への提出　１０％
２　日誌とポートフォリオの提出　３０％
　a. ポートフォリオ：〈一種のボランティアを４０時間以上実施〉 英語900-1350語または日本語2400-3600字
　　〈複数のボランティアを総合して４０時間以上実施〉 計画に応じて担当者より指示する
　b. リフレクション：　ボランティア活動全体を通した内容とする。英語450語または日本語1200字
　c. 日誌：　準備期間及び活動中の記録　複数の活動を統合した場合もまとめて提出
３　ボランティア活動の積極的な参加　６０％

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
その他（受講要件、学生へのアドバイス、連絡手段等）
　希望者は国内ボランティア委員及び教務委員に連絡すること。プログラム全期間中、担当者と緊密に連絡を取り合いながら実施することが大切である。各活動に応じて計画を立案する。

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:ボランティア（海外）	担当者:田端　智美,嶋守　さやか	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
国際的なNGO・企業・国際機関等でボランティア活動に参加することにより、学生自らが成長し、コミュニティ精神を養うことを目的とする。子ども・障がい者・貧しい人、病める人等の環境・コミュニティでボランティア活動を通して実習を行う。担当者と話し合いを持って活動を決定する。１年時後期から４年次までの実習が可能であるが、４年次１月までに活動を完了することとする。

授業の到達目標
子ども・障がい者等の環境・コミュニティでボランティアすることにより、貴重な海外経験を過ごし、自らの能力を高めることが目標である。こうした活動を通して、様々な分野でボランティアする精神を養う。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
活動実施条件：（１）海外でのボランティア活動を10日間（80時間）以上行うこと（２４ヶ月以内に80時間を達成すること）　①１つの活動を80時間以上行う場合　②複数種類の活動を総合して80時間以上行う場合　①②のいずれかに該当すること　　（２）海外機関ボランティア許可書・ボランティア活動申込書を提出し、担当者に許可を求める。　（３）ボランティア活動届を提出する。　（４）準備期間も含め、活動を日誌にして提出　（５）活動報告を行う　（６）レポートを作成する

評価方法
学修活動（１）～（４）について評価する。活動内容２０％・日誌４０％・レポート２０％・態度２０％で採点する。

教科書	参考図書
特になし	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
希望者は、担当教員と相談を行い、活動の立案を行うこと。
田端　tabata@ohkagakuen-u.ac.jp　嶋守　shimamori@ohkagakuen-u.ac.jp

01	希望者は担当者と連絡を取り授業を計画すること。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2019年度シラバス

科目名:総合英語Ⅰ	担当者:内田　政一	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生にとって身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。また、Phrase Learningを通して、日常的な会話に必要となる英語表現の習得を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

教科書	参考図書
角山照彦他　New Connection Book 1(成美堂)　内田政一他　Active Communication with Phrases(南雲堂)	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	Introduction
02	Unit 1 : Meeting People (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 1 Phrases)
03	Unit 1 : Meeting People (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 1 Exercises)
04	Unit 2 : Time to Eat (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 2 Phrases)
05	Unit 2 : Time to Eat (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 2 Exercises)
06	Unit 3 : Living with Technology (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 3 Phrases)
07	Unit 3 : Living with Technology (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 3 Exercises)
08	Unit 4 : Shopping for Clothes (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 4 Phrases)
09	Unit 4 : Shopping for Clothes (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 4 Exercises)
10	Unit 5 : A Helping Hand at Home (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 5 Phrases)
11	Unit 5 : A Helping Hand at Home (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 5 Exercises)
12	Unit 6 : Going Places (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Phrases復習①)
13	Unit 6 : Going Places (Reading & Writing))/ Phrase Learning (Phrases復習②)
14	Unit 7 : Not Feeling So Good (Listening & Speaking) / Phrase Learning (まとめ①)
15	Unit 7 : Not Feeling So Good (Reading & Writing) / Phrase Learning (まとめ②)
16	Final Exam

科目名:総合英語Ⅰ	担当者:加藤　あや美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生にとって身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
　これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。また、Phrase Learningを通して、日常的な会話に必要となる英語表現の習得を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

教科書	参考図書
角山照彦他 New Connection Book 1 (成美堂)　内田政一他 Active Communication with Phrases (南雲堂)	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	Introduction
02	Unit 1 : Meeting People (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 1 Phrases)
03	Unit 1 : Meeting People (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 1 Exercises)
04	Unit 2 : Time to Eat (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 2 Phrases)
05	Unit 2 : Time to Eat (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 2 Exercises)
06	Unit 3 : Living with Technology (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 3 Phrases)
07	Unit 3 : Living with Technology (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 3 Exercises)
08	Unit 4 : Shopping for Clothes (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 4 Phrases)
09	Unit 4 : Shopping for Clothes (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 4 Exercises)
10	Unit 5 : A Helping Hand at Home(Listening & Speaking)/ Phrase Learning(Unit 5 Phrases)
11	Unit 5 : A Helping Hand at Home(Reading & Writing)/ Phrase Learning(Unit 5 Exercises)
12	Unit 6 : Going Places (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Phrases復習①)
13	Unit 6 : Going Places (Reading & Writing) / Phrase Learning (Phrases復習②)
14	Unit 7 : Not Feeling So Good (Listening & Speaking) / Phrase Learning (まとめ①)
15	Unit 7 : Not Feeling So Good (Reading & Writing) / Phrase Learning (まとめ②)
16	Final Exam

2019年度シラバス

科目名:総合英語Ⅰ	担当者:石川　香代子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。身近なトピックを扱ったテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をグループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用し、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力が向上するような内容となっています。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身に付け、日常的に必要となる英語を使用することができるようになることを目標とします。さらに、Phrase Learningを通して日常会話で必要とされる語彙や表現の基礎の習得を目指します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業後の復習（筆記・音読）や自主的な練習は、各自で行い授業に臨むようにしましょう。また、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

教科書	参考図書
角山照彦　Andrey Dubinsky 他（2017）New Connection Book 2（成美堂）内田政一　加藤あや美　他（2016）Active Communication with Phrases（南雲堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書と辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内でお知らせします。

01	Introduction
02	Unit 1 : Roommates (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Unit 1 Phrases)
03	Unit 1 : Roommates (Reading & Writing) /　Phrase Learning (Unit 1 Exercises)
04	Unit 2 : Checking Out (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Unit 2 Phrases)
05	Unit 2 : Checking Out (Reading & Writing) /　Phrase Learning (Unit 2 Exercises)
06	Unit 3 : Get in Shape (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Unit 3 Phrases)
07	Unit 3 : Get in Shape (Reading & Writing) /　Phrase Learning (Unit 3 Exercises)
08	Unit 4 : Money Management (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Unit 4 Phrases)
09	Unit 4 : Money Management (Reading & Writing) /　Phrase Learning (Unit 4 Exercises)
10	Unit 5 : Close Ties (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Unit 5 Phrases)
11	Unit 5 : Close Ties (Reading & Writing) /　Phrase Learning (Unit 5 Exercises)
12	Unit 6 : Time to Celebrate (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Phrases復習①)
13	Unit 6 : Time to Celebrate (Reading & Writing) /　Phrase Learning (Phrases復習②)
14	Unit 7 : Animals in Danger (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (まとめ①)
15	Unit 7 : Animals in Danger (Reading & Writing) /　Phrase Learning (まとめ②)
16	定期テスト

2019年度シラバス

科目名:総合英語Ⅰ	担当者:小野　克志	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。異文化体験をテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をグループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。また、Phrase Learningを通して、日常的に必要となる英語表現の習得を目指します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業後の復習（筆記・音読）や自主的な練習は、各自で行い授業に臨むようにしましょう。また、教科書以外にも保育英検等の参考資料や、英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日常から英語に触れ合うようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

教科書	参考図書
角山照彦他　New Connection Book 2（成美堂）　内田政一他　Active Communication with Phrases（南雲堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書を毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいて下さい。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内でお知らせします。

01	Introduction
02	Unit 1 : Roommates (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 1 Phrases)
03	Unit 1 : Roommates (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 1 Exercises)
04	Unit 2 : Checking Out (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 2 Phrases)
05	Unit 2 : Checking Out (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 2 Exercises)
06	Unit 3 : Get in Shape (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 3 Phrases)
07	Unit 3 : Get in Shape (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 3 Exercises)
08	Unit 4 : Money Management (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 4 Phrases)
09	Unit 4 : Money Management (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 4 Exercises)
10	Unit 5 : Close Ties (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 5 Phrases)
11	Unit 5 : Close Ties (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 5 Exercise)
12	Unit 6 : Time to Celebrate (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Phrases 復習①)
13	Unit 6 : Time to Celebrate (Reading & Writing) / Phrase Learning (Phrases 復習②)
14	Unit 7 : Animals in Danger　/　Phrase Learning　(まとめ①)
15	Unit 7 ： Animals in Danger　/　Phrase Learning　(まとめ②)
16	定期テスト

2019年度シラバス

科目名:総合英語Ⅱ	担当者:内田　政一	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生に身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。また、Phrase Learningを通して、日常的な会話に必要となる英語表現の習得を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

教科書	参考図書
角山照彦他　New Connection Book 1(成美堂)　内田政一他　Active Communication with Phrases(南雲堂)	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	Introduction
02	Unit 8：The Big Screen (Listening & Speaking)　/　Phrase Learning　(Unit 6 Phrases)
03	Unit 8：The Big Screen (Reading & Writing)　/　Phrase Learning　(Unit 6 Exercises)
04	Unit 9：　How Do You Feel? (Listening & Speaking　/　Phrase Learning　(Unit 7 Phrases)
05	Unit 9：　How Do You Feel? (Reading & Writing)　/　Phrase Learning　(Unit 7 Exercises)
06	Unit 10：All in Good Fun (Listening & Speaking)　/　Phrase Learning　(Unit 8 Phrases)
07	Unit 10：All in Good Fun (Reading & Writing)　/　Phrase Learning　(Unit 8 Exercises)
08	Unit 11：Game Time (Listening & Speaking) /　Phrase Learning　(Unit 9 Phrases)
09	Unit 11：Game Time (Reading & Writing) /　Phrase Learning　(Unit 9 Exercises)
10	Unit 12：Rain or Shine (Listening & Speaking)　/　Phrase Learning　(Unit 10 Phrases)
11	Unit 12：Rain or Shine (Reading & Writing)　/　Phrase Learning　(Unit 10 Exercises)
12	Unit 13：Eating Out (Listening & Speaking) /　Phrase Learning　(Phrases復習①)
13	Unit 13：Eating Out (Reading & Writing)/　Phrase Learning　(Phrases復習②)
14	Unit 14：School Life (Listening & Speaking)　/　Phrase Learning　(まとめ①)
15	Unit 14：School Life (Reading & Writing　/　Phrase Learning　(まとめ②)
16	Final Exam

2019年度シラバス

科目名:総合英語Ⅱ	担当者:加藤　あや美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生にとって身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
　これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。また、Phrase Learningを通して、日常的な会話に必要となる英語表現の習得を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

教科書	参考図書
角山照彦他 Mew Connection Book 1 (成美堂)　内田政一他 Active Communication with Phrases (南雲堂)	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	Introduction
02	Unit 8 : The Big Screen (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 6 Phrases)
03	Unit 8 : The Big Screen (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 6 Exercises)
04	Unit 9 : How Do You Feel? (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 7 Phrases)
05	Unit 9 : How Do You Feel? (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 7 Exercises)
06	Unit 10 : All in Good Fun (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 8 Phrases)
07	Unit 10 : All in Good Fun (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 8 Exercises)
08	Unit 11 : Game Time (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 9 Phrases)
09	Unit 11 : Game Time (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 9 Exercises)
10	Unit 12 : Rain or Shine (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 10 Phrases)
11	Unit 12 : Rain or Shine (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 10 Exercises)
12	Unit 13 : Eating Out (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Phrases復習①)
13	Unit 13 : Eating Out (Reading & Writing) / Phrase Learning (Phrases復習②)
14	Unit 14 : School Life (Listening & Speaking) / Phrase Learning (まとめ①)
15	Unit 14 : School Life (Reading & Writing) / Phrase Learning (まとめ②)
16	Final Exam

2019年度シラバス

科目名:総合英語Ⅱ	担当者:石川　香代子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。身近なトピックを扱ったテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をグループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用し、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力が向上するような内容となっています。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身に付け、日常的に必要となる英語を使用することができるようになることを目標とします。さらに、Phrase Learningを通して日常会話で必要とされる語彙や表現の基礎の習得を目指します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業後の復習（筆記・音読）や自主的な練習は、各自で行い授業に臨むようにしましょう。また、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
　授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

教科書	参考図書
角山照彦　Andrey Dubinsky他（2017）New Connection Book 2（成美堂）内田政一　加藤あや美　他（2016）Active Communication with Phrases（南雲堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書と辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内でお知らせします。

01	Introduction
02	Unit 8：A Fine Art（Listening & Speaking）/　Phrase Learning（Unit 6 Phrases）
03	Unit 8：A Fine Art（Reading & Writing）/　Phrase Learning（Unit 6 Exercises）
04	Unit 9：Tune In（Listening & Speaking）/　Phrase Learning（Unit 7 Phrases）
05	Unit 9：Tune In（Reading & Writing）/　Phrase Learning（Unit 7 Exercises）
06	Unit 10：Music to Our Ears（Listening & Speaking）/　Phrase Learning（Unit 8 Phrases）
07	Unit 10：Music to Our Ears（Reading & Writing）/　Phrase Learning（Unit 8 Exercises）
08	Unit 11：Study Abroad（Listening & Speaking）/　Phrase Learning（Unit 9 Phrases）
09	Unit 11：Study Abroad（Reading & Writing）/　Phrase Learning（Unit 9 Exercises）
10	Unit 12：Technology and You（Listening & Speaking）/ Phrase Learning（Unit 10 Phrases）
11	Unit 12：Technology and You（Reading & Writing）/ Phrase Learning（Unit 10 Exercises）
12	Unit 13：Right and Wrong（Listening & Speaking）/　Phrase Learning（Phrases復習①）
13	Unit 13：Right and Wrong（Reading & Writing）/　Phrase Learning（Phrases復習②）
14	Unit 14：Your Career Starts Now（Listening & Speaking）/　Phrase Learning（まとめ①）
15	Unit 14：Your Career Starts Now（Reading & Writing）/　Phrase Learning（まとめ②）
16	定期テスト

2019年度シラバス

科目名:総合英語Ⅱ	担当者:小野　克志	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。異文化体験をテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をグループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。また、Phrase Learningを通して、日常的に必要となる英語表現の習得を目指します。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業後の復習（筆記・音読）や自主的な練習は、各自で行い授業に臨むようにしましょう。また、教科書以外にも保育英検等の参考資料や、英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日常から英語に触れ合うようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

教科書	参考図書
角山照彦他　New Connection Book 2（成美堂）内田政一他　Active Communication with Phrases（南雲堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、授業内でお知らせします。

01	Introduction
02	Unit 8 : A Fine Art (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 6 Phrases)
03	Unit 8 : A Fine Art (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 6 Exercises)
04	Unit 9 : Tune In (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 7 Phrases)
05	Unit 9 : Tune In (Readng & Writing) / Phrase Learning (Unit 7 Exercises)
06	Unit 10 : Music to Our Ears (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 8 Phrases)
07	Unit 10 : Music to Our Ears (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 8 Exercises)
08	Unit 11 : Study Abroad (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 9 Phrases)
09	Unit 11 : Study Abroad (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 9 Exercises)
10	Unit 12 : Technology & You (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 10 Phrases)
11	Unit 12 : Technology & You (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 10 Exercises)
12	Unit 13 : Right & Wrong (Listening & Speaking)　/　Phrase Learning　(Phrases復習①)
13	Unit 13 : Right & Wrong (Reading & Writing)　/　Phrase Learning　(Phrases復習②)
14	Unit 14 : Your Career Starts Now (Listening & Speaking)　/　Phrase Learning　(まとめ①)
15	Unit 14 : Your Career Starts Now (Reading & Writing)　/　Phrase Learning　(まとめ②)
16	定期テスト

2019年度シラバス

科目名:ポルトガル語と文化Ⅰ	担当者:富松　エミ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
講義形式と、グループを作ってディスカッションをして発表し合う

授業の到達目標
ブラジル・ポルトガル語の基礎段階を総合的に学習します。発音、挨拶表現、文法等、基礎的能力を養成します。ブラジルの文化・歴史について、又、日本の幼稚園・保育園、学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても言及します。（音楽、映画、ブラジルの遊び、幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を使って紹介します）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
人数的に無理だと思うので予定していないが、状況が許せば、ブラジル料理の店などを紹介したい

評価方法
（出席・.授業参加度・意欲・関心）20%・提出物20%・小テスト30%・発表・レポート30%

教科書	参考図書
ブラジルを発見-ブラジル・ポルトガル語入門　兼松シルビア典子著　同学社（必修）学生の携帯電話のアプリケーション（辞書）の使用も可	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ポルトガル語はブラジル人にとってもとても難しいので、テキストは簡単なものを選びました。それでも日本人には難しいと思いますが、がんばって楽しい授業をするので一緒にがんばりましょう。　毎回、教科書の日本語訳を予習してきてください。

01	ポルトガル語のこととブラジルのこと
02	ポルトガル語の文字と発音１
03	ポルトガル語の文字と発音練習問題
04	挨拶と簡単な日常会話１
05	挨拶と簡単な日常会話２
06	名詞の性と数
07	否定文と疑問文
08	ブラジルと日本の違い
09	４～７の練習問題とInternacional Day準備
10	ＳＥＲ動詞１とInternacional Day準備
11	ＳＥＲ動詞2 とInternacional Day準備
12	形容詞とInternacional Day準備
13	Internacional Day
14	教室でInternacional Dayのポスターの発表とレポート提出
15	ブラジルの食文化とブラジルの料理作り
16	

2019年度シラバス

科目名:ポルトガル語と文化Ⅱ	担当者:富松　エミ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	選択必須

授業概要と方法
講義形式と、グループを作ってディスカッションをして発表し合う

授業の到達目標
ブラジル・ポルトガル語の基礎段階を総合的に学習します。発音、挨拶表現、文法等、基礎的能力を養成します。ブラジルの文化・歴史について、又、日本の幼稚園・保育園、学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても言及します。（音楽、映画、ブラジルの遊び、幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を使って紹介します）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
人数的に無理だと思うので予定していないが、状況が許せば、ブラジル料理の店などを紹介したい

評価方法
(出席・.授業参加度・意欲・関心)20%・提出物20%・発表30%・会話テスト30%

教科書	参考図書
ブラジルを発見-ブラジル・ポルトガル語入門　兼松シルビア典子著　同学社（必修）学生の携帯電話のアプリケーション（辞書）の使用も可	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ポルトガル語はブラジル人にとってもとても難しいので、テキストは簡単なものを選びました。それでも日本人には難しいと思いますが、がんばって楽しい授業をするので一緒にがんばりましょう。　毎回、教科書の日本語訳を予習してきてください。

01	前期のおさらい
02	所有詞と練習問題
03	命令形と指示詞
04	ＥＳＴＡＲ動詞
05	17～18の練習問題と会話の練習
06	グループで会話作り
07	ＱＵＥＲＥＲ動詞と数詞と会話の練習
08	会話の発表・ＳＥＲとＥＳＴＡＲの違い
09	場所の副詞と時間の言い方
10	20～22の練習問題と会話の練習
11	ＴＥＲ動詞・ブラジルについてのグループ調べ
12	ＰＯＤＥＲ動詞・ブラジルについてのグループ調べ
13	ブラジルについてのグループ発表
14	ブラジルのお菓子作り
15	会話テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:スペイン語と文化Ⅰ	担当者:ﾛﾝｾﾛｽ　ﾛｻﾘｵ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
スペイン語と文化Iは1年生の選択科目で、スペイン語の基礎とスペイン語圏の文化を勉強します。初めてスペイン語を勉強する学生を対象とします。また、インターナショナル・デイには、グループで取り組んだ文化学習内容を発表します。このコースは、スペイン語での会話になれること、簡単な表現を使って、色々なシチュエーションにおけるスペイン語を勉強します。個人又はグループで実際的なコミュニケーションの練習をするので授業の中での学生の積極的な参加を期待します。

授業の到達目標
このコースの修了時に、学生たちは次の能力を持つことが期待される：1. アルファベット、数詞を習得し簡単な単語を使った会話ができる。2. Ser, Estar 動詞を使った質問文、解答文を作ることができる。3. 学んだ知識を使って先生やクラスメートと簡単なコミュニケーションができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
予習より復習に力を入れ、新しく覚えた単語を毎回発音しながら覚える。必要時間1時間30分～2時間。

評価方法
最終評価は、次の要素を満たす必要がある。1. 単語、会話小テスト　　25%2. 授業態度、提出物　　25%3. 確認テスト 2回　　50% 合計 100%

教科書	参考図書
¡Hola! ¿Qué tal?	El Español y YO

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業の予習・復習、　宿題の提出、授業中の積極的な発言を期待します。このコースに関する質問、不安などがある者は授業者ロサリオ・ロンセロスにEメールでコンタクトをとること。 アドレス：rosariohilario@hotmail.com

01	ガイダンス、資料の配布、自己紹介、 アルファベットの歌
02	第１課　 挨拶の練習、 アルファベット
03	第１課　 発音練習 、スペルの練習
04	名詞の性と数 、冠詞、冠詞形容詞
05	第2課　 単語小テスト 、 数詞 ※ インターナショナル・デイの準備（文化学習）　　※ ペルー民族舞踊の紹介と練習。(ダンス)
06	5課　 動詞 ser
07	第5課　 動詞serの使い方、 職業、 特徴や性質を表わす形容詞
08	確認テスト（１） ※ インターナショナル・デイの準備（文化学修）　　※ スペイン語の歌の紹介と練習
09	第5課　 動詞serの使い方、国名・国籍
10	第6課　 曜日・月・時間
11	第6 課　 指示形容詞、 会話練習
12	インターナショナル・デイ　　※文化体験（民族衣装を体験する）
13	第7課　 動詞estar 、場所を表す前置詞
14	第7課　 動詞haber (hay)　　※授業評価アンケート
15	第7 課　 総復習とまとめ、確認テスト (2)
16	なし

2019年度シラバス

科目名:スペイン語と文化Ⅱ	担当者:ﾛﾝｾﾛｽ　ﾛｻﾘｵ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
スペイン語と文化IIは1年生の選択科目で、スペイン語と文化Ⅰの続きで、スペイン語の基礎とスペイン語圏の文化を勉強し、入門を終えた学生を対象とします。また、インターナショナル・デイには、グループで取り組んだ文化学習内容を発表します。このコースは、現在形の動詞で簡単な表現を使って、スペイン語でのコミュニケーションができるように計画されています。個人又はグループで実用的なコミュニケーションの練習をして実践的に学んでいきます。

授業の到達目標
このコースの修了時に、学生たちは次の能力を持つことが期待される：1. 新しい単語を使って簡単な会話の練習をしながら、スペイン語の知識を増やす。2. 現在形動詞の規則動詞、不規則動詞の活用を学び、小文章を書くこと、読むことができる。3. 学んだ知識を使って先生やクラスメートと簡単なコミュニケーションができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
予習より復習に力を入れ、新しく覚えた単語を毎回発音しながら覚える。必要時間1時間30分～2時間。

評価方法
最終評価は、次の要素を満たす必要がある。1. 単語、会話小テスト　　25%2. 授業態度、提出物　　25%3. 確認テスト 2回　　50% 合計 100%

教科書	参考図書
¡Hola! ¿Qué tal?	El Español y YO

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業の予習・復習、宿題の提出、授業中の積極的な発言を期待します。このコースに関する質問、不安などがある者は授業者ロサリオ・ロンセロスにEメールでコンタクトをとること。アドレス：rosariohilario@hotmail.com

01	ガイダンス、自己紹介、スペイン語Iの復習
02	第3課　　主格人称代名詞、規則動詞の活用　～ar
03	第3課　　規則動詞の活用　～er,　～ir
04	第3 課　　疑問文 ：¿Qué..？, ¿Cómo..？, ¿Dónde..？, 会話練習、　　単語小テスト
05	第4課　　不規則動詞の活用　～ar, ～er,　～ir
06	第4課　　前置詞 (a, de, con) 、疑問詞　¿A quién..？, ¿De dónde..？, ¿Con quién..? 会話練習
07	確認テスト（1）　　※ ペルーの昔の子供の遊びの紹介(ゲーム)。
08	第8 課　　動詞 querer の活用
09	動詞 querer の使い方、　会話練習
10	第9 課　　動詞 poder の活用
11	第9 課　　動詞 poder の使い方、　　会話練習
12	ペルーの食文化体験かスペイン語の映画の紹介。　　※食文化体験（ペルー料理）
13	第10 課　　動詞 tener の活用、動詞 tener の使い方、　会話の練習
14	第10 課　　疑問文　¿Cuántos ..？　¿Qué ..？　¿Cómo..？　¿Dónde..?、　会話の練習 ※ 学期末アンケート実施
15	年間学習内容のまとめ、確認テスト (2)
16	なし

2019年度シラバス

科目名:フランス語と文化Ⅰ	担当者:中島 潤	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:受講者上限を5名とし、超えた場合は抽選とします		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 フランス語及びフランス語圏の文化について学びます。主に教科書を使って授業を進めていきますが、適宜、学生諸君の興味に合わせて、映画や音楽、芝居などの映像・音声などを使用したいと思っています。
授業の到達目標 簡単なフランス語を、読み・聞き・書き・話せるようになることが目標です。具体的には、実用フランス語技能検定５級合格程度のフランス語能力を身につけることになります。
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修 フランス語を習得する上で、指示した練習問題を予習することが必要となります。さらに、学習したことの定着をはかるため、授業中に学習した事項の復習が必要になります。
評価方法 授業への参加態度２０％　確認テスト８０％

教科書	参考図書
『新装　カフェ・フランセ』朝日出版社	特にありません

その他(学生へのアドバイス、連絡手段) 語学の学習は継続が重要です。理解できない項目があったら、必ず質問するなど、問題点を解決してください。急がず焦らずにがんばってください。連絡先は授業で開示する。

01	授業の概要説明。アルファベなど。 簡単な単語の発音（日本語の中のフランス語）。 簡単な単語の発音（解説・発音練習・文法練習など）。 Leçon 1　自己紹介・国籍を言う（解説・発音練習・文法練習など） 授業の概要説明。アルファベなど。
02	簡単な単語の発音（日本語の中のフランス語）。
03	簡単な単語の発音（解説・発音練習・文法練習など）。
04	Leçon 1　自己紹介・国籍を言う（解説・発音練習・文法練習など）
05	Leçon 1　元気かどうかをきく（解説・発音練習・文法練習など）
06	Leçon 1　数字（解説・発音練習・文法練習など）
07	Leçon 2　職業（解説・発音練習・文法練習など）
08	Leçon 2　住んでいるところについていう（解説・発音練習・文法練習など）
09	Leçon 2　聴き取り（解説・発音練習・文法練習など）
10	Leçon 3　国籍と否定形・言語（解説・発音練習・文法練習など）
11	Leçon 3　喫茶店の飲み物と食べ物（解説・発音練習・文法練習など）
12	文化体験学習（International Day）
13	Leçon 3　注文しましょう（解説・発音練習・文法練習など）
14	Leçon 4　身の回りのもの・否定・兄弟（解説・発音練習・文法練習など）
15	Leçon 4　何歳ですか（解説・発音練習・文法練習など）・確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:フランス語と文化Ⅱ	担当者:中島 潤	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:受講者上限を5名とし、超えた場合は抽選とします。		単位数	1
		必須. 選択	選択必須

授業概要と方法
前期からの継続です。フランス語及びフランス語圏の文化について学びます。主に教科書を使って授業を進めていきますが、適宜、学生諸君の興味に合わせて、映画や音楽、芝居などの映像・音声などを使用したいと思っています。

授業の到達目標
前期からの継続です。簡単なフランス語を、読み・聞き・書き・話せるようになることが目標です。具体的には、実用フランス語技能検定５級合格程度のフランス語能力を身につけることになります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
フランス語を習得する上で、指示した練習問題を予習することが必要となります。さらに、学習したことの定着をはかるため、授業中に学習した事項の復習が必要になります。

評価方法
授業への参加態度２０％　確認テスト８０％

教科書	参考図書
『新装　カフェ・フランセ』朝日出版社	特にありません

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
語学の学習は継続が重要です。理解できない項目があったら、必ず質問するなど、問題点を解決してください。急がず焦らずにがんばってください。連絡先は授業で開示する。

01	Leçon 5　人物を描写する（解説・発音練習・文法練習など）
02	Leçon 5　国名（解説・発音練習・文法練習など）
03	Leçon 5　インタビュー（解説・発音練習・文法練習など）
04	Leçon 6　これはなんですか（解説・発音練習・文法練習など）
05	Leçon 6　物の位置（解説・発音練習・文法練習など）
06	Leçon 6　数字（解説・発音練習・文法練習など）
07	Leçon 7　定冠詞（解説・発音練習・文法練習など）
08	Leçon 7　好み嫌いの程度を言い表す（解説・発音練習・文法練習など）
09	Leçon 7　好み（解説・発音練習・文法練習など）
10	Leçon 8　色・洋服（解説・発音練習・文法練習など）
11	Leçon 8　どんな天気ですか（解説・発音練習・文法練習など）
12	Leçon 8　比較する（解説・発音練習・文法練習など）
13	Leçon 9　朝食（解説・発音練習・文法練習など）
14	Leçon 9　頻度の副詞（解説・発音練習・文法練習など）
15	Leçon 9　スポーツ（解説・発音練習・文法練習など）・確認テスト
16	

2019年度シラバス

科目名:中国語と文化Ⅰ	担当者:高　文軍,布　和	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:受講者は上限50名とし、超えた場合は抽選とします		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この授業は初めて中国語を学習する学生を対象とする。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目指す。「グループワークとグループ発表」（全２回）。また、視聴覚資料を使って、中国文化に関する理解を深める。

授業の到達目標
基本発音を習得し、ピンインを読んで発声できる。中国語での挨拶や自己紹介、物の尋ね方と答え、疑問詞疑問文、形容詞表現、買い物など簡単な基本表現を、繰り返し練習することによって身につける。言語の他に、授業を通して中国文化の基本知識を少しずつ学んで心得る。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業時間内で学んだ内容の復習と次の事前予習。授業外の学習時間は前期を通して７時間とする。　映画、音楽、時事など中国文化に関することに関心を持つ。　課文ごとに小テストあり、各自で準備すること。

評価方法
　平常点（授業への参加、貢献度、宿題、小テストなど）　40%。　口頭テスト　10%。　　確認テスト　50%。

教科書	参考図書
『初級中国語 教科書＋ドリル』 白帝社	『ことばの散歩道』Ⅰ～Ⅳ　白帝社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
関心を持つことはマスタするには大事不可欠。 研究室は7号館7322室、オフィスアワーは、月曜日２限 メールアドレス：gaowj@ohkagakuen-u.ac.jp

01	はじめに ようこそ　中国語の基本 声調
02	第１課 こんにちは 基本母音 変調
03	第２課 ありがとう 軽声
04	第３課 子音 練習
05	第４課 複母音 練習
06	第５課 みなさん、こんにちは
07	听写（一）　発音まとめ　体験学習
08	第６課 テキストを開いてください
09	第７課 元気ですか 代名詞（１）（人称） 疑問文と否定文
10	第８課 お名前は
11	第９課 これは何ですか　代名詞(２)(物)、「是」の構文、疑問詞「什么」「誰」
12	インターナショナルデイ
13	第10課 誰のパソコンですか 「的」、副詞「也」「都」、听写（二）
14	まとめ、復習 口頭テスト
15	確認テスト
16	なし

科目名:中国語と文化Ⅱ	担当者:高　文軍,布　和	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:「中国語と文化Ⅰ」を修得した者		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この授業は初めて中国語を学習する学生を対象とする。発音の習得を重視しつつ、簡単な語彙や表現を身につけることを目指す。また、視聴覚資料を使って、中国文化に関する理解を深める。グループワークとグループ発表ある。

授業の到達目標
基本発音を習得した上、引き続き初歩的な中国語を学ぶ。物の尋ね方と答え、疑問など簡単な基本表現を、繰り返し練習することによって身につけ、自分の口から言える、使えることは究極的な目標である。映画鑑賞などを通じて、中国文化への理解をレポートで表現できる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業時間内で学んだ内容の復習と次の事前予習。授業外の学習時間は通して７時間とする。　映画、音楽、時事など中国文化に関することに関心を持つ。課文ごとに小テストあり、各自で準備すること。

評価方法
　平常点（授業への参加、貢献度、宿題、小テストなど）　40%。口頭テスト　10%。　　確認テスト　50%。

教科書	参考図書
『初級中国語 教科書＋ドリル』 白帝社	『ことばの散歩道』Ⅰ～Ⅳ　白帝社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
関心を持つことはマスタするには大事不可欠。 研究室は7号館7322室、オフィスアワーは、月曜日２限 メールアドレス：gaowj@ohkagakuen-u.ac.jp

01	前期要点チェック、復習
02	第11課　何を食べますか
03	第12課　辞典を持っていますか
04	第13課　何人家族ですか
05	第14課　何月何日ですか
06	第15課　何時ですか
07	听写（三）単語練習　中国文化のあれこれ　グループワーク
08	第16課　どうしましたか
09	第17課　何歳ですか
10	中国映画鑑賞
11	プレゼンテーション　体験学習　中国のお茶（料理）
12	第18課　いくらですか
13	第19課　辞典を一冊あげます
14	復習　口頭テスト
15	確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:韓国語と文化Ⅰ	担当者:金　三淑	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力を高める一環として、韓国語と文化Ⅰでは韓国語の文字(ハングル)及び基礎文法を学びながら、簡単な日常会話を練習します。また、韓国の生きた文化に触れながら理解を深めていきます。International Dayには、グループで取り組んだ文化学修内容を発表します。

授業の到達目標
本授業は韓国語の「聞く・話す・読む・書く」基礎能力を身に付けることができるようになります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：学修する課のCDを聞き、音読の練習をしてください。必要時間：約30分　事後学修：学修した単語を単語帳にまとめ、覚えてください。必要時間：約30分K-POP、ドラマなど韓国の文化と触れ合うことをお勧めします。

評価方法
授業への参加態度　30%、確認テスト　40%、課題　30%

教科書	参考図書
『即！実践　楽しもう韓国語』、金孝珍　著、白帝社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
興味をもって学習をすすめることが大切だと考えます。積極的に取り組み、楽しく学んでいきましょう。オフィスアワー：授業の前後の時間

01	ガイダンス
02	文字編　第1課　基本母音
03	文字編　第２課　子音（１）
04	文字編　第３課　子音（２）激音と濃音、ミニ会話
05	まとめ、確認テスト（１）、International Dayの準備（文化学修）
06	文字編　第４課　複合母音、辞書の順序、ミニ会話
07	文字編　第５課　終声（パッチム）、子音の名称
08	まとめ、確認テスト（２）、文化体験Ⅰ　映画鑑賞①
09	文化体験Ⅰ　映画鑑賞②
10	文字編　第６課　発音の変化①、日本語のハングル表記、あいさつ言葉
11	International Dayの準備（文化学修）
12	7月１日　　文化体験Ⅱ（International Day）　　＊教室変更
13	会話編　第1課（１）　저는 이동민입니다. 私はイ・ドンミンです。
14	会話編　第１課（２）文化コーナー　人を呼ぶときの表現Ⅰ
15	まとめ、確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:韓国語と文化Ⅱ	担当者:金　三淑,都　恩珍	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力を高める一環として、韓国語と文化Ⅱでは韓国語と文化Ⅰに引き続き韓国語の基礎文法を学びながら、簡単な日常会話及び自己紹介を練習します。授業は、テキストを中心に進めますが、ペアーワークで会話の練習をします。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深めていきます。

授業の到達目標
本授業は韓国語の「聞く・話す・読む・書く」基礎能力を身に付けることができるようになります。みんなの前で自己紹介ができるようになります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：学修する課のCDを聞き、音読の練習をしてください。必要時間：約30分事後学修：学修した単語を単語帳にまとめ、覚えてください。必要時間：約30分K-POP、ドラマなど韓国の文化と触れ合うことをお勧めします。

評価方法
授業への参加態度　30%、確認テスト　40%、練習帳・課題　30%

教科書	参考図書
『即！実践　楽しもう韓国語』、金孝珍　著、白帝社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
興味をもって学習をすすめることが大切だと考えます。積極的に取り組み、楽しく学んでいきましょう。オフィスアワー：授業の前後の時間

01	前期の内容の復習
02	会話編　第２課　　전공이 뭐예요? 専攻は何ですか。
03	会話編　第３課①　 도서관 옆에 있습니다.　 図書館の横にあります。
04	会話編　第３課②　文化コーナー　人を呼ぶときの表現Ⅱ
05	まとめ、確認テスト
06	会話編　第４課①　 토요일은 아르바이트를 합니다. 土曜日はアルバイトをします。
07	会話編　第４課②　　曜日のまとめ、語彙プラス
08	確認テスト（自己紹介）、文化体験Ⅰ　映画鑑賞①
09	文化体験Ⅰ　映画鑑賞②
10	会話編　第５課①　한국 영화를 좋아해요?　韓国映画が好きですか。
11	会話編　第５課②　ワークシート　합니다体と해요体
12	文化体験Ⅱ　韓国の歌など
13	会話編　第６課①　　별로 안 멀어요. あまり遠くありません。
14	会話編　第６課②　　～より、～から～まで等の表現
15	まとめ、確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:日本語表現Ⅰ	担当者:松浦　照子, 三宅　俊浩	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	その他

授業概要と方法
　「日本語表現」科目では、大学生に必要な日本語運用スキルを身につけることを目的とする。「日本語表現Ⅰ」では、「話す・聞く」の言語活動に重点を置き、実践を通してその基礎力を養う。授業では、学内でインタビューを実施し、その成果を発表する。さらに、インタビューさせていただいた方へのお礼状を作成することを通して、敬語および手紙の知識を身につける。また、漢字テストを実施することで漢字の知識を増やす。

授業の到達目標
　・場面や相手に応じて適切なことばを選択し、使用することができる。　・伝えたいことがらを精確な表現で相手に伝えることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　漢字の学習に取り組むこと。

評価方法
　提出課題：20%、発表および報告会での発言：30%、インタビュー活動：30%、漢字テスト：20%をふまえ、総合的に評価する。

教科書	参考図書
松浦照子 ほか『実践 日本語表現』ナカニシヤ出版、日本漢字能力検定協会『漢検10日間でできる練習問題 準2級』松浦照子 ほか『実践 日本語表現』ナカニシヤ出版、日本漢字能力検定協会『漢検10日間でできる練習問題 準2級』	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業担当者との連絡は原則としてメールにておこなう。欠席する場合は、必ず授業担当者へ連絡すること。メールアドレスは授業にて通知する。

01	オリエンテーション　プレテストの実施
02	インタビューする際に適切な表現を学ぶ（敬語の基礎）
03	インタビューする際に適切な表現を学ぶ（敬語の応用）
04	インタビューの訪問先およびグループメンバーを決定する
05	アポイントメントを取る　「聴く」こととはどのようなことかを理解する
06	インタビューにおける質問項目の決定する
07	インタビューを実施する
08	手紙における適切な表現を学ぶ
09	お礼状を書く
10	葉書における適切な表現を学ぶ
11	インタビューの内容をまとめる
12	報告会のレジュメを作成する
13	発表の仕方を学ぶ
14	報告会にて成果を発表する
15	報告会にて成果を発表する（続き）および漢字確認テスト
16	なし

2019年度シラバス

科目名:日本語表現Ⅱ	担当者:松浦　照子, 三宅　俊浩	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須. 選択	その他

授業概要と方法
「日本語表現」科目では、大学生に必要な日本語運用スキルを身につけることを目的とする。「日本語表現Ⅱ」では、ブックレポートの作成を通じて、適切な資料を選択するスキルを身につけるとともに、読む力、書く力を高める。また、漢字テストを実施することで漢字の知識を増やす。

授業の到達目標
・テーマに即した図書資料を適切に選択できる。・図書資料からテーマに関する部分を選択でき、かつ的確に要約することができる。・レポート作成に必要な基礎知識を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
漢字の学習に取り組むこと。

評価方法
ブックレポート：30%、提出課題：20%、授業への参加態度：20%、漢字テスト：20%、ポスター：10%をふまえ、総合的に評価する。

教科書	参考図書
松浦照子 ほか『実践 日本語表現』ナカニシヤ出版、日本漢字能力検定協会『漢検10日間でできる練習問題 準2級』	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業担当者との連絡は原則としてメールにておこなう。欠席する場合は、必ず授業担当者へ連絡すること。メールアドレスは授業にて通知する。

01	オリエンテーション　マイストーリーを書く
02	ブックレビューをポスターにする〈準備〉
03	ブックレビューをポスターにする〈作成〉
04	ブックレビューをポスターにする〈交流〉
05	〈ブックレポート〉読む技術を知る　あらまし読みをする
06	〈ブックレポート〉レポートの表現を学ぶ（話しことばと書きことば）
07	〈ブックレポート〉要約の方法を学ぶ
08	〈ブックレポート〉共通点・相違点を考える
09	〈ブックレポート〉レポートの問いを立て、資料を選択し、あらまし読みをする
10	〈ブックレポート〉資料を精読する
11	〈ブックレポート〉資料の要約
12	〈ブックレポート〉共通点・相違点を導出する
13	〈ブックレポート〉引用のルールを理解する
14	〈ブックレポート〉レポートを作成する
15	授業のまとめおよび漢字確認テスト
16	なし

科目名:基礎演習Ⅰ	担当者:斎　孝則、井川　恵理	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限: PCを持参すること。		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
学芸学部のディプロマポリシーにある「修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」および「現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」といった「社会人基礎力」を育成する科目である。その育成のため、大学での学び方、自主学修、グループワーク、情報収集、情報提供や思考の表現また、ICTを用いたコミュニケーションの方法などを実践的に行う。

授業の到達目標
①自分の現在の能力を批判的に分析し、大学生活での各自の目標を明確にすることができる。
②社会人基礎力とは何かを理解し、そのために必要な実践計画（アクションプラン）を設定することができる。
③自主的な学修とグループワークをバランスよく実践することができる。
④他者とのコミュニケーションにおいて、相手を尊重し、礼儀正しい言葉遣いや様式を用いることができる。
⑤批判的思考ができ、論理的で想像的な発信ができる能力を身につけるために必要な学修をすることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①各自が設定した目標に向けて秩序ある生活を送る。
②自主的な学修とグループワークをバランスよく実践するため、各自が課題に真摯に取り組み、伝達を適宜行い、協力する。後期に行われる大学祭の準備は前期に始まるため、皆が協力して考え、取り組む。
③国内外の社会に対して関心をもち、新聞・TV・ウェブサイト上の各種ニュース、書籍からの情報を常に収集し、考察する習慣を身につける。
④各種委員や係など、各自の分担を自覚し、常に授業で皆に情報提供や意見交換ができるよう準備する。
⑤上記の準備・事後学修のため、週２時間を要する。

評価方法
授業における取り組み（自主的取り組み、グループワークでの協力）(50%)、レポート内容（20%)、キャリアデザインシートとリフレクション（30%)

教科書	参考図書
プリント資料配布。	授業内で指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①大学生活の基本となる授業なので、積極的に取り組む。
②連絡先（斎）sai@ohkagakuen-u.ac.jp、研究室7326、（井川）ikawa@ohkagakuen-u.ac.jp、研究室7310
③オフィスアワー　授業で公開する。

01	基礎演習Ⅰ のガイダンス（フレッシュマンセミナーの振り返り、シラバス確認、各種活動担当の説明）
02	学芸学部、大学全体の行事、その意義、役割分担
03	「英語と私（なぜ日本人は英語が苦手なのか）」（学長の講話）
04	施設見学：図書館およびESCガイダンス＜図書課長、教務課担当者＞
05	「私の大学生活設計」（概論：大学生の基礎知識・情報「社会人基礎力とは何か」）
06	「私の大学生活設計」（キャリアデザインシート　作成）
07	「私の大学生活設計」（キャリアデザインシート　発表）
08	ICTを用いたコミュニケーション（PC等を用いてメール連絡をする方法）
09	ICTを用いた書類作成と保存（PCで整理整頓）
10	大学での学修方法（ノートの取り方）
11	大学での学修方法（レポートの書き方）説明、大学祭（名桜祭）とは
12	世界を知るにはまず地元から　地域との連携（フィールドワーク　事前学修）、大学祭準備会議
13	世界を知るにはまず地元から　地域との連携（有松地区）
14	世界を知るにはまず地元から　地域との連携（振り返り　グループ・ディスカッション）、大学祭準備会議
15	前期の大学生活を振り返ろう（レポート提出）
16	

2019年度シラバス

科目名:基礎演習Ⅰ	担当者:田端　智美,寺田　恭子,石山　英明	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:PC持参		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
保育に関わる基本を修得する。基本的なレポートの書き方を学ぶ。保育実践方法を学び、学生同士で模擬保育を行う。自信を持って子どもの前で保育ができるように、発表を行う。グループ協同活動を基礎単位とした学科運営行事を1回行う。

授業の到達目標
仲間と交流・協力することを軸として次の3つの力を身につける。① 保育者としての基礎力（記述する・ICTスキル）② 保育者としての実践力(子どもの前で話す・演じる・教える)③ 発表する力(自分の意見を他人に伝える・人前で堂々と発表する)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業・MOODLE・メール等で指示を行う積極的に絵本の読み聞かせや手遊びなどを練習し、保育実践力を高めてください

評価方法
提出課題の内容(50点)、発表を含んだ授業への参加態度(50点)として合計100点満点で評価する。

教科書 特になし	参考図書 幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段　代表tabata@ohkagakuen-u.ac.jp 積極的に授業に参加してください。

01	前期の学びについてのオリエンテーション 2レポートの書き方講座・ポートフォリオについて 3レポートの書き方実践・GWの課題 4レポート(GW課題)の発表 5ボランティア講座・キャリアデザイン講座 6保育の技術を磨く１（制作遊びと模擬保育） 7保育の技術を磨く２（制作遊び英語ver.と模擬保育） 8保育の技術を磨く３（音楽遊びの模擬保育） 9保育の技術を磨く４（音楽遊び英語ver.の模擬保育） 10保育の技術を磨く５（ダンス遊びの模擬保育） 11保育の技術を磨く
02	日本の伝統文化研究１（内容説明）
03	日本の伝統文化研究２（鑑賞）
04	文献を読みレポートを作成しよう(GW課題)（レポートの書き方含む）
05	ボランティア・キャリアデザイン講座
06	海外の生活・海外インターンシップに向けて
07	ニュージーランドのティ・ファリキについて学ぼう
08	学科運営行事
09	日本の伝統文化を英語で紹介するために１（日本文化を調べる）
10	日本の伝統文化を英語で紹介するために２（発表の準備）
11	日本の伝統文化を英語で紹介するために３（前半グループ発表）
12	日本の伝統文化を英語で紹介するために４（後半グループ発表）
13	日本の伝統文化を英語で紹介するために５（まとめ）
14	夏休み課題の書き方の説明（文献提示等）
15	まとめ(前期の振り返り・夏休みの課題の確認)
16	なし

科目名:基礎演習Ⅰ	担当者:松永　康史,淺野　卓司,北島　信子,古畑　淳,上村　晶,森川　拓也,小柳津 和博,寺田 泰人,堀　由里	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:パソコン使用		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業は大学での学習の基礎固めという位置づけで、アカデミックスキルズを中心に学んでいきます。特に、今後の学習の中で必要となる、文献・資料検索の方法、レジュメ・レポートの作成についてグループワーク等を取り入れながら学習していきます。また、自分がまとめたレジュメやレポートの発表を通して、自己発信力のトレーニングも行っていきます。さらに、授業内ではPCを使用しながら、タスクをこなしていくことで、基本的なICTスキルを身につけていきます。ボランティア・体験学習の意義を知り、実際に計画・体験します。

授業の到達目標
　各人の学びの成果を発表し、ゼミメンバーの「考え方」に傾聴し共有すること、能動的に学習すること。ゼミメンバーと交流・協力することを軸として、①保育者基礎力（観察する力、洞察する力、記述する力）、②研究法（文献資料の検索・読み方・レポートの作成）、③ICTスキル（PCを用いて学習を展開するスキル）の基礎を獲得する。④体験学習での気づきを交流し学びを深める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業、Moodle、メール等で毎回指示をする。

評価方法
　提出課題の内容60%、発表、討論の内容を含んだ授業への参加態度40%

教科書	参考図書
課題文献については授業内で指示する。	授業時に適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　この科目は4年間の学びの基礎作りをする重要な科目であるため、積極的な取り組みをするよう心がけてください。

01	授業概要説明
02	教職履修カルテの説明
03	ボランティア・体験学習について①
04	ボランティア・体験学習について②
05	ボランティア・体験学習について③
06	ボランティア・体験学習について④
07	ボランティア・体験学習について⑤
08	文献輪読・レジュメ作成①
09	文献輪読・レジュメ作成②
10	文献輪読・レジュメ作成③
11	文献輪読・レジュメ作成④
12	文献輪読・レポート作成
13	レポートの発表と相互検討①
14	エデュケアセンター訪問計画等
15	レポートの発表と相互検討②　前期のまとめ
16	

2019年度シラバス

科目名:基礎演習Ⅱ	担当者:斎　孝則、井川　恵理	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:　PCを持参すること。		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
学芸学部のディプロマポリシーにある「修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」および「現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」といった「社会人基礎力」を育成する科目である。その育成のため、大学での学び方、自主学修、グループワーク、情報収集、情報提供や思考の表現また、ICTを用いたコミュニケーションの方法などを実践的に行う。

授業の到達目標
①自分の現在の能力を批判的に分析し、大学生活での各自の目標を明確にすることができる。
②社会人基礎力とは何かを理解し、そのために必要な実践計画（アクションプラン）を設定することができる。
③自主的な学修とグループワークをバランスよく実践することができる。
④他者とのコミュニケーションにおいて、相手を尊重し、礼儀正しい言葉遣いや様式を用いることができる。
⑤批判的思考ができ、論理的で想像的な発信ができる能力を身につけるために必要な学修をすることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①各自が設定した目標に向けて秩序ある生活を送る。
②自主的な学修とグループワークをバランスよく実践するため、各自が課題に真摯に取り組み、伝達を適宜行い、協力する。大学祭等、さまざまな行事の準備や運営、事後の振り返りまで、皆が協力して考え、取り組む。
③国内外の社会に対して関心をもち、新聞・TV・ウェブサイト上の各種ニュース、書籍からの情報を常に収集し、考察する習慣を身につける。
④各種委員や係など、各自の分担を自覚し、常に授業で皆に情報提供や意見交換ができるよう準備する。
⑤上記の準備・事後学修のため、週２時間を要する。

評価方法
授業における取り組み（自主的取り組み、グループワークでの協力）(45%)、レポート内容（20%)、キャリアデザインシートとリフレクション（20%)、Semester Learning Portfolio（10%)、学期末TOEIC L&R IP受験（5%)

教科書	参考図書
プリント資料配布。	授業内で指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①大学生活の基本となる授業なので、積極的に取り組む。
②連絡先（斎）sai@ohkagakuen-u.ac.jp、研究室7326、（井川）ikawa@ohkagakuen-u.ac.jp、研究室7310
③オフィスアワー　授業で公開する。

01	基礎演習II のガイダンス（シラバス確認、各種行事や活動の確認、伝達の重要性、夏休み課題報告開始）
02	夏休み課題報告会、Semester Learning Portfolioとは、大学祭プロジェクトの目的
03	Semester Learning Portfolio準備、大学祭プロジェクト準備
04	Semester Learning Portfolio発表、大学祭プロジェクト準備
05	「私の大学生活設計」（キャリアデザインシート　後期）準備、大学祭プロジェクト準備
06	「私の大学生活設計」（キャリアデザインシート　後期）発表、大学祭プロジェクト準備
07	テーマを決めてディベート、大学祭プロジェクト直前確認
08	大学祭プロジェクト振り返り、ディベートにチャレンジ！～社会を知る(1)　○○と私たち　自分たちの社会、未来に関わる課題を考える
09	ディベートにチャレンジ！社会を知る(2)　○○と私たち、データを集めて準備しよう
10	ディベートにチャレンジ！社会を知る(3)　○○と私たち、情報交換しよう
11	ディベートにチャレンジ！社会を知る(4)　○○と私たち　「立場」にたってみよう（ディベートの目的）
12	ディベートにチャレンジ！社会を知る(5)　○○と私たち　「立場」にたってみよう（ディベート準備）
13	ディベートにチャレンジ！社会を知る(6)　○○と私たち　「立場」にたってみよう（ディベート実践）
14	グループ内まとめ　ふりかえり
15	TOEIC L&R IP 受験
16	基礎演習と社会人基礎力

2019年度シラバス

科目名:基礎演習Ⅱ	担当者:田端　智美,寺田　恭子,石山　英明	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
前期の「基礎演習Ⅰ」をさらに充実させ、応用的に学ぶ。保育実践として手遊び・絵本の読み聞かせを行い、ブックにまとめる。また前期の書き方を応用して、指定文献を読みまとめる。その後自らのテーマを設定しレポートを作成する。その事柄を発表し、意見交換を行う。グループ協同活動を基礎単位とした学科運営行事を1回行う。

授業の到達目標
友人と交流・協力することを軸として次の3つの力を身につける。① 保育者としての基礎力・応用力（観察する・記述する・ICTスキル）② 保育者としての実践力・応用力(子どもの前で話す・演じる・教える)③ 発表する力(自分の意見を、PPを使って他人に伝える・人前で堂々と発表する)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業・MOODLE・メール等で指示を行う

評価方法
提出課題の内容(50点)、発表を含んだ授業への参加態度(50点)として合計100点満点で評価する。

教科書 特になし	参考図書 授業内で指示

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段　代表tabata@ohkagakuen-u.ac.jp 積極的に授業に参加してください。

01	後期の学びについてのオリエンテーション
02	海外インターンシップの報告１（第１グループ発表）
03	海外インターンシップの報告２（第２グループ発表）
04	チームで発表することの意義について
05	社会人基礎力を身につける１（思考力・行動力を中心に）
06	社会人基礎力を身につける２（コミュニケーションを中心に）
07	社会人基礎力を身につける３（３つの力をあわせるグループワーク）
08	社会人基礎力を身につける４（反省と今後の課題）・論文を読もう１（論文の検索）
09	論文を読もう２（輪読）
10	海外の子ども達に伝えたい日本文化について
11	海外の子どもたちに日本文化を紹介するために 海外の子ども達に日本文化を紹介するために
12	海外の子ども達に日本文化を紹介する発表会１（前半グループ発表）
13	海外の子ども達に日本文化を紹介する発表会２（後半グループ発表） 海外の子ども達に日本文化を紹介する発表会２（後半グループ発表）
14	国内外の子ども達と季節のイベントについて
15	後期および１年間のまとめ
16	なし

科目名:基礎演習Ⅱ	担当者:松永　康史,淺野　卓司,北島　信子,古畑　淳,上村　晶,森川　拓也,小柳津 和博,寺田 泰人,堀　由里	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:パソコン使用		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　本授業は「基礎演習Ⅰ」に引き続き、大学での学習の基礎固めという位置づけで、アカデミックスキルズを中心に学んでいきます。特に、今後の学習の中で必要となる、文献・資料の検索方法、レジュメ・レポートの作成についてグループワーク等を取り入れながら学習します。また、自分がまとめたレジュメやレポートの発表を通して、自己発信力のトレーニングも行っていきます。さらに、授業内ではPCを使用しながらタスクをこなしていくことで、基本的なICTスキルを身につけていきます。

授業の到達目標
　学びの成果を発表し、「考え方」に傾聴し共有すること、能動的に学習すること。ゼミメンバーと交流・協力することを軸として、①保育者基礎力（観察する力、洞察する力、記述する力）、②研究法（文献資料の検索・読み方・レポートの作成）、③ICTスキル（PCを用いて学習を展開するスキル）の基礎を獲得する。④体験学習での気づきを交流し学びを深める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業、Moodle、メール等で毎回指示をする。

評価方法
提出課題の内容60%、発表、討論の内容を含んだ授業への参加態度40%

教科書	参考図書
課題文献については授業内で指示する。	授業時に適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
冬休み課題として「子ども発見シート」を書きます。

01	教職履修カルテの振り返り、学外体験の報告①
02	教職履修カルテの振り返り、学外体験の報告②
03	教職履修カルテの振り返り、学外体験の報告③
04	文献輪読・レジュメ作成①
05	文献輪読・レジュメ作成②
06	文献輪読・レジュメ作成③
07	文献輪読・レジュメ作成④
08	文献輪読・レジュメ作成⑤
09	文献輪読・レポート作成①
10	文献輪読・レポート作成②
11	レポートの発表と相互検討①
12	レポートの発表と相互検討②
13	エデュケアセンター訪問体験（後期に1回）
14	子ども発見シートの発表と意見交換①
15	子ども発見シートの発表と意見交換②後期の振り返り、2年生に向けて
16	